

札幌市就学前児童のいる世帯を対象とした ニーズ等調査 報告書（概要版）

1. 調査の目的

札幌市では子ども・子育て支援法に基づく「市町村子ども・子育て支援事業計画」を包含する「新・さっぽろ子ども未来プラン」（計画期間：平成27年度～平成31年度）に基づき、教育・保育サービスの提供体制の拡充を進めている。

この度、「新・さっぽろ子ども未来プラン」の計画期間が終了する令和2年度（2020年度）以降のプランの策定に当たり、市民の教育・保育ニーズと札幌市における子育て支援の課題を抽出し、同プランの改定に向けた基礎データを収集することを目的として本調査を実施した。

2. 調査の実施内容

(1) 就学前児童のいる世帯を対象としたニーズ調査

項目	内容
対象者	住民基本台帳から無作為に抽出した、就学前児童（5歳以下）の保護者15,000人
調査手法	郵送アンケート調査（郵送発送、回収）。ウェブアンケートフォーム、Eメールによる回答も可。
調査期間	平成30年12月7日～平成31年1月4日
回収状況	6,116件（回収率40.8%）

(2) グループヒアリング

項目	内容
対象者	①保護者：ニーズ調査にて参加を希望した49名（父親6名、母親43名） ②子育て支援者：保育士5名、幼稚園教諭4名、児童会館スタッフ2名、民間児童育成会関係者1名、市民活動団体関係者3名
実施方法	グループワーク（3～5名にインタビュアー1名配置）
実施日時	①保護者：平成31年2月9日、10日、16日 ②子育て支援者：平成31年2月17日

目次

1. 保護者など子どもを取り巻く世帯の状況

- (1) 世帯の状況 p. 1
- (2) 子育ての主な担い手 p. 2
- (3) 保護者の就労状況 p. 3
- (4) 親が子どもと過ごす時間 p. 4
- (5) 子どもをみてもらえる親族・知人 p. 5
- (6) 育児休業取得状況 p. 6
- (7) 育児休業を取得しなかった理由 p. 7

2. 子育てに対する保護者の意識

- (1) 子育ての楽しさと大変さ p. 8
- (2) 子育てをしてよかったこと p. 9
- (3) 子育ての悩み p.10
- (4) 子育てに関する悩みの相談先 p.11
- (5) 子育てに関する情報の入手先 p.12
- (6) 家庭での子育て p.13

3. 子育てに対する保護者のニーズ

- (1) 予定する子どもの人数 p.15
- (2) 平日の定期的な預け先 p.16
- (3) 教育・保育事業の利用にあたって重視すること p.17
- (4) 土曜、日曜・祝日の定期的な預け先 . . . p.18
- (5) 病気やケガが発生したときの対応 . . . p.19
- (6) 不定期の教育・保育事業、宿泊を伴う一時預かり等の利用 p.20
- (7) 小学校就学後の放課後の過ごし方 . . . p.21
- (8) 妊娠中から出産後までに特に重要なサポート p.22
- (9) 子育て支援施策に関する意見・要望 . . p.23
- (10) その他自由意見 p.24

4. ニーズ調査のまとめと方向性 p.25

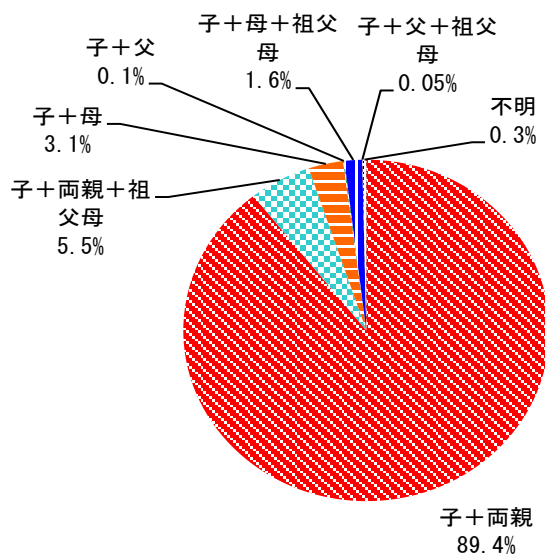
1. 保護者など子どもを取り巻く世帯の状況

(1) 世帯の状況（問4・6関係）

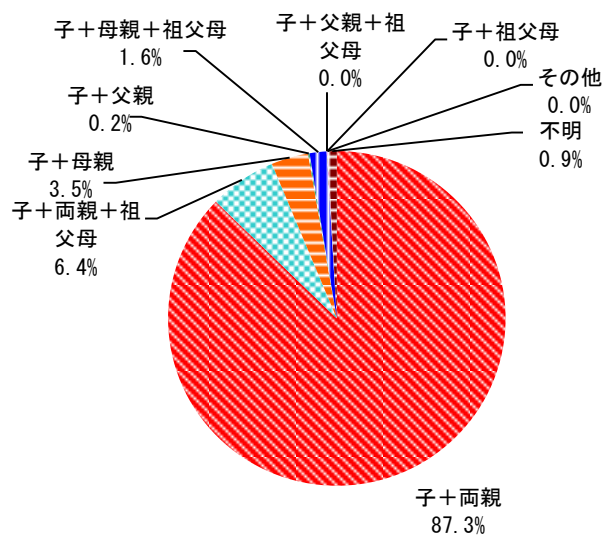
① 世帯構成

- ・世帯構成については、「子+両親」の二世世代家庭が89.4%で圧倒的に多く、「子+両親(父のみ・母のみを含む)+祖父母」の三世世代家庭は7.2%となっている。
- ・平成25年度調査と比べて、「子+両親」の二世世代の割合がやや増加している。(平成25年:87.3%、平成30年:89.4%)

平成30年度調査 (N=6,116)



《参考》平成25年度調査 (N=6,208)



② 世帯年収

- ・世帯年収については、二世世代世帯・三世世代世帯ともに「500万円以上700万円未満」が最も多い。
- ・ひとり親世帯については、「200万円未満」が最も多い。

《キーワード》

ひとり親世帯の低い年収

世帯年収について（世帯構成ごとの内訳）

世帯構成	N	世帯年収												
		200万円未満	200万円～249万円未満	250万円～299万円未満	300万円～349万円未満	350万円～399万円未満	400万円～449万円未満	450万円～499万円未満	500万円～699万円未満	700万円以上	わからない・答えたく	不明		
世帯構成														
お子さん+ご両親(二世世代世帯)	5,469	1.6	6.0	13.5	17.3	29.0	18.4	7.3	5.2	1.7				
お子さん+ご両親+祖父母(三世世代世帯)	335	4.5	10.1	17.0	18.8	22.1	14.9	5.4	6.0	1.2				
お子さん+母/父親(ひとり親・二世世代世帯)	195	42.6	22.1	9.2	7.2	4.1	1.0	1.0	12.8	-				
お子さん+母/父親+祖父母(ひとり親・三世世代世帯)	98	34.7	12.2	11.2	7.1	6.1	3.1	3.1	19.4	3.1				

1. 保護者など子どもを取り巻く世帯の状況

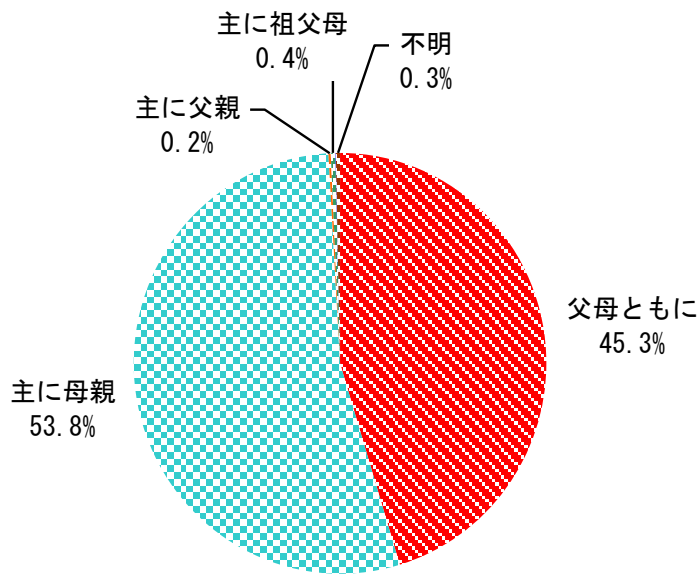
(2) 子育ての主な担い手（問5 関係）

- ・子育ての主な担い手については、「父母ともに」が45.3%、「主に母親」が53.8%となっている。
- ・平成25年度調査と比べて、父母がともに子育てを担っている割合が増加している。（平成25年：38.3%、平成30年：45.3%）

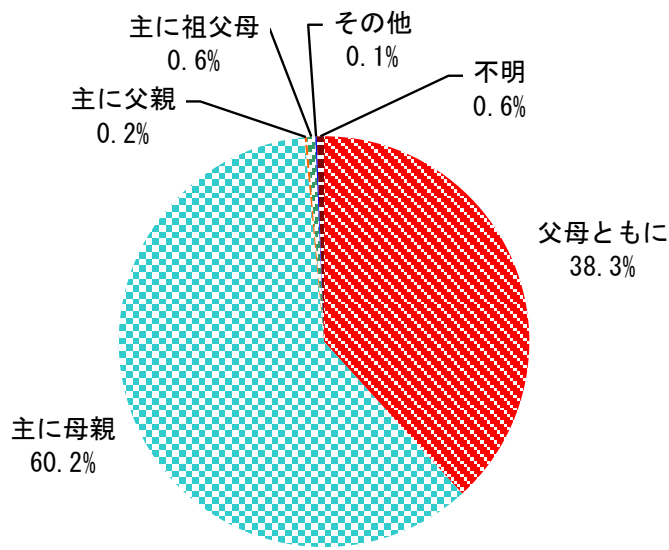
《キーワード》

父親の子育てへの意識の高まり

平成30年度調査（N=6,116）



《参考》平成25年度調査（N=6,208）



《参考》子育て支援者グループヒアリングより

Q. 最近の父親は積極的に子育てに関わっていると思うか。

- 「関わっている」「以前よりも行事参加など、関心を持っている人が増えた。」など肯定的な回答が多かった。
- ただ、「人ごとの（意識の）差が大きい」「気持ちはあるが状況が許さない場合もある。」といった意見も出た。

1. 保護者など子どもを取り巻く世帯の状況

(3) 保護者の就労状況（問17・問18関係）

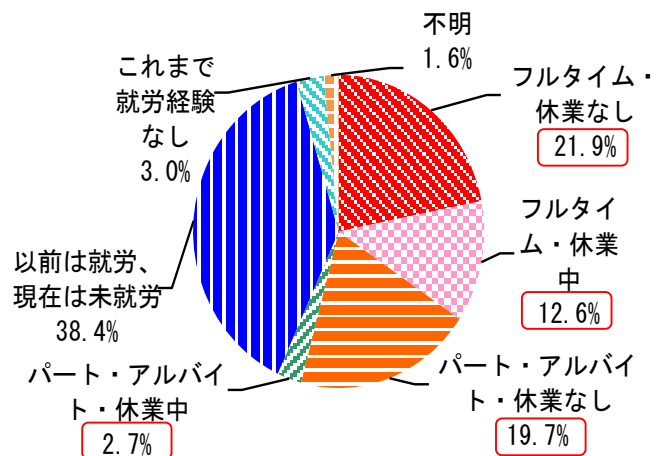
- ・母親の現在の就労状況については、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が38.4%で最も多く、次いで「フルタイムで就労しており産休・育休・介護休業中ではない」が21.9%となっている。
- ・平成25年度調査の結果に比べ、母親がフルタイム、パート・アルバイトなどで就労（休業中を含む）している割合は大幅に増加している。（平成25年：41.7%、平成30年：56.9%）
- ・父親の現在の就労状況については、「フルタイムで就労しており産休・育休・介護休業中ではない」が92.7%となっており、休業中も含めたフルタイムの割合は、母親に比べ父親が圧倒的に高くなっている。（父親：93.0%、母親34.5%）

《キーワード》

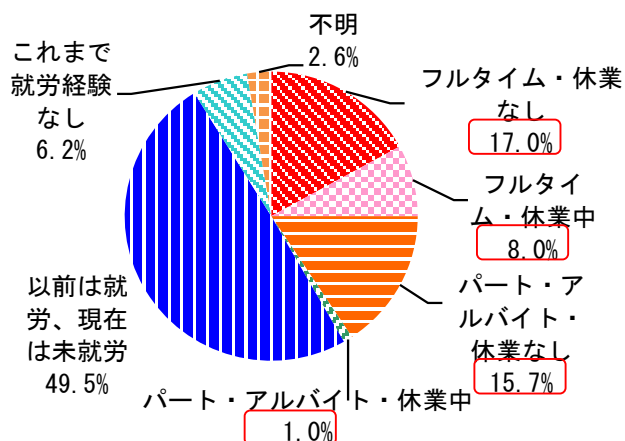
働く母親の
顕著な増加

① 母親の就労状況

平成30年度調査（N=6,087）

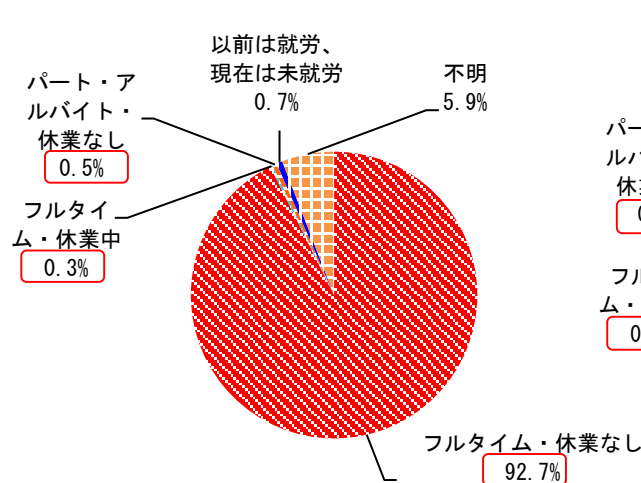


《参考》平成25年度調査（N=6,141）

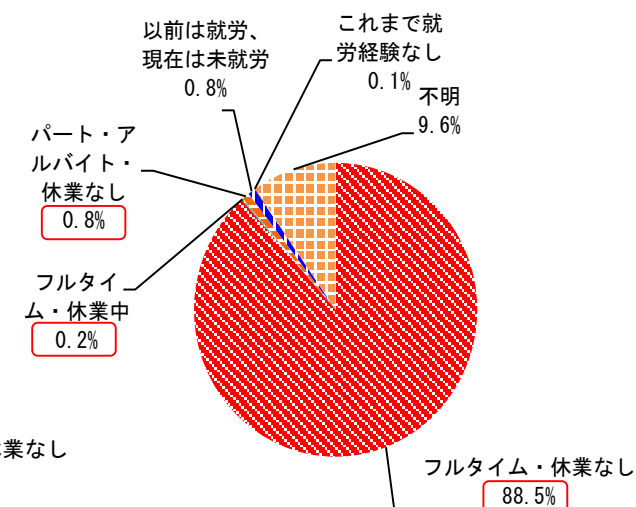


② 父親の就労状況

平成30年度調査（N=5,814）



《参考》平成25年度調査（N=5,832）



1. 保護者など子どもを取り巻く世帯の状況

(4) 親が子どもと過ごす時間（問7関係）

- ・就労中の親が平日に子どもと過ごす時間については、母親が「5～6時間」が42.8%と最も多いのに対し、父親は「1～2時間」が47.6%と最も多くなっている。
- ・就労中でも未就労でも、父母を比較すると、母親が子どもと過ごす時間が圧倒的に多い結果となっており、母親中心の子育てであることが窺える。

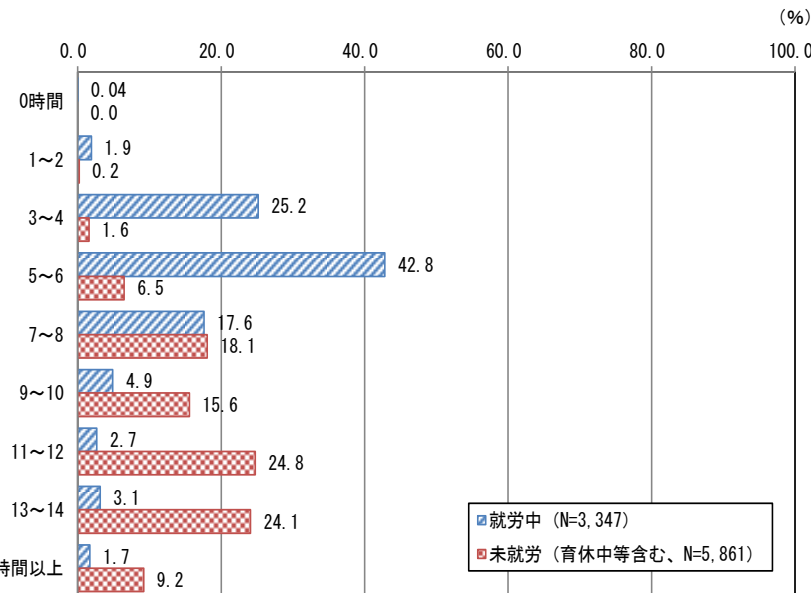
《キーワード》

母親中心の子育て

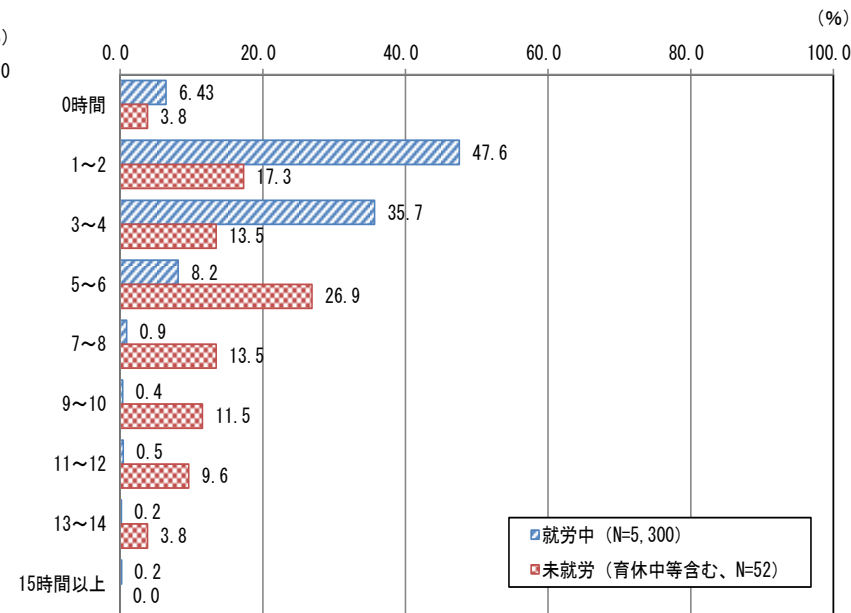
父親の子どもと過ごす時間の少なさ

《参考》保護者グループヒアリングより

①母親が子どもと過ごす時間



②父親が子どもと過ごす時間



Q. どうすれば/どういう働きかけがあれば、父親は今より積極的に子育てに関わるようになるか。

○「お父さんと参加するイベント」や「父親参加型の会」などといった父親が参加するイベントを開催するといった意見が多く出た。

○「父親が少しでも子育てに関わるメリットや方法、モデルケースを札幌市が示す。」「他の父親の例を示す」など、父親が子育てをするメリットやモデルケースを行政が紹介するといった意見が出た。

○一方、「もっと時間があれば」、「仕事が減れば」、「早く帰って来られれば」といった、長時間勤務が父親の子育てを阻害しているといった意見が挙げられ、「休みを取りやすい職場環境」、「定時勤務の徹底」、「育児が当たり前になる」など、社会・職場における意識・制度の変革についての意見が出た。

1. 保護者など子どもを取り巻く世帯の状況

(5) 子どもをみてもらえる親族・知人（問10関係）

・日頃、子どもをみてもらえる親族・知人については、「緊急時もしくは用事の際には子どもの祖父母などの親族にみてもらえる」が59.9%と最も多く、次いで、「日常的に子どもの祖父母などの親族にみてもらえる」が23.7%であった。

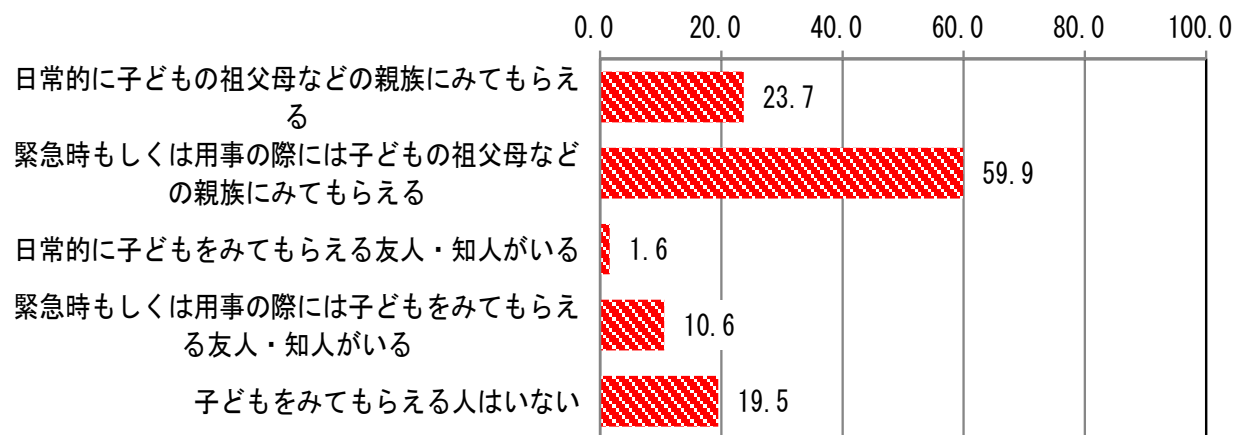
・「子どもをみてもらえる人はいない」も19.5%が挙げている。

《キーワード》

頼れる人がいない

インターネット情報に頼る実態

子どもをみてもらえる親族・知人＜複数回答＞
(N=6,101 ※不明除く)



《参考》子育て支援者グループヒアリングより

Q. 子育て世帯を取り巻く環境について、以前と比べて特に変わってきたと感じていることは何か。

○「共働き世帯の増加」を挙げる意見が多かった。そこから、「子どもと親と一緒に過ごす時間が少ない」、「しつけ全般が園任せになっている。」という意見が出た。

○「預かってくれる人や手助けをしてくれる人がいない家族が多い。」「転勤族など、アウェイ育児をしている人の増加。」という意見が出た。

○また、「ネットの情報にとらわれすぎている」「LINEで親同士つながる」などインターネットによる情報収集・コミュニケーションが行われていることについての指摘もされている。

1. 保護者など子どもを取り巻く世帯の状況

(6) 育児休業取得状況（問36関係）

- ・母親の育児休業の取得状況は、「働いていなかった」が52.6%と最も多く、次いで、「育児休業を取得した」が28.1%、「現在、取得中である」が10.2%であった。
- ・平成25年度調査の結果に比べ、母親が「育児休業を取った、あるいは今取っている」は増加している。（平成25年：26.9%、平成30年38.3%）
- ・一方、父親の育児休業の取得状況は、「取得していない」が91.5%で最も多く、平成25年度調査と比較しても、父親が「育児休業を取った、あるいは今取っている」は微増に留まっている。（平成25年：2.1%、平成30年4.3%）

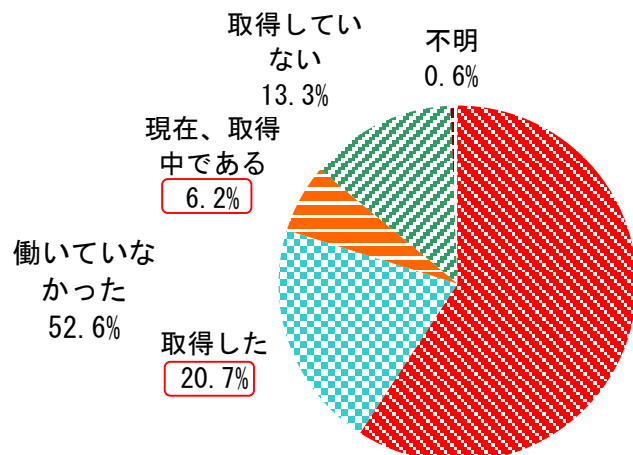
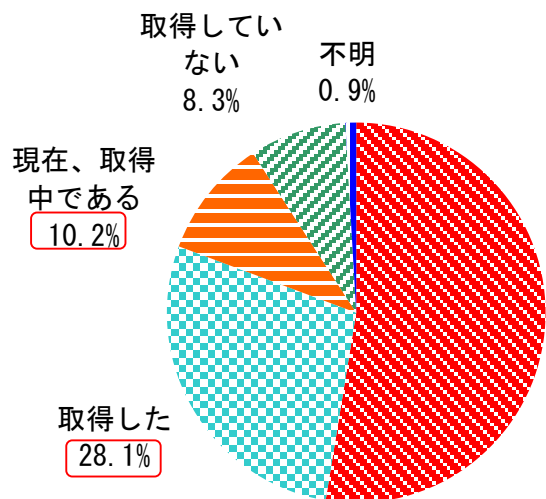
《キーワード》

育休取得は
圧倒的に母親

① 母親の取得状況

平成30年度調査（N=6,116）

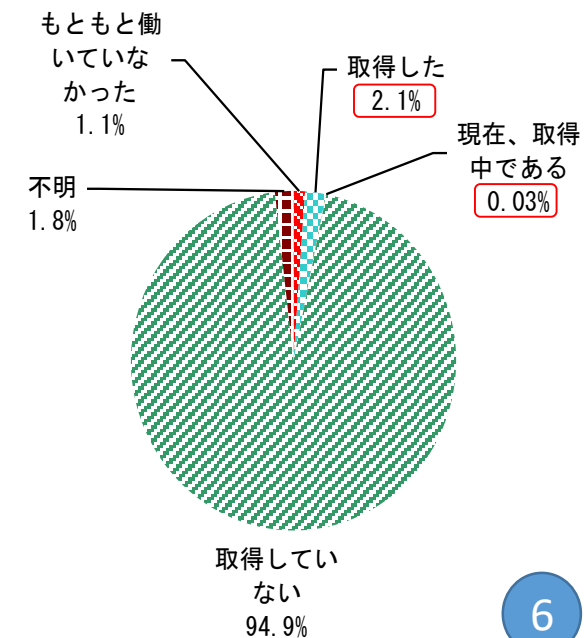
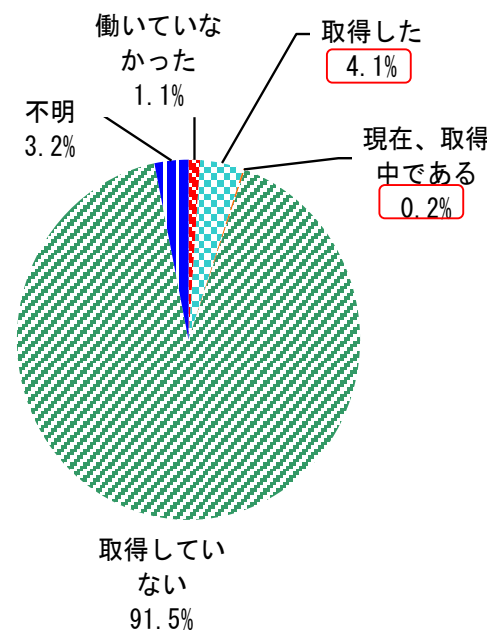
《参考》平成25年度調査（N=6,192）



② 父親の取得状況

平成30年度調査（N=6,116）

《参考》平成25年度調査（N=5,896）



1. 保護者など子どもを取り巻く世帯の状況

(7) 育児休業を取得しなかった理由（問36関係）

・育休を取得しなかった母親にその理由を聞いたところ、「子育てや家事に専念するため退職したため」が32.4%と最も多かった。

・育休を取得しなかった父親にその理由を聞いたところ、「仕事が忙しかったため」が40.8%と最も多く、次いで、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったため」が36.5%、「収入減となり、経済的に苦しくなるため」が26.3%と続いている。

《キーワード》

父親の育児休業取得のハードル

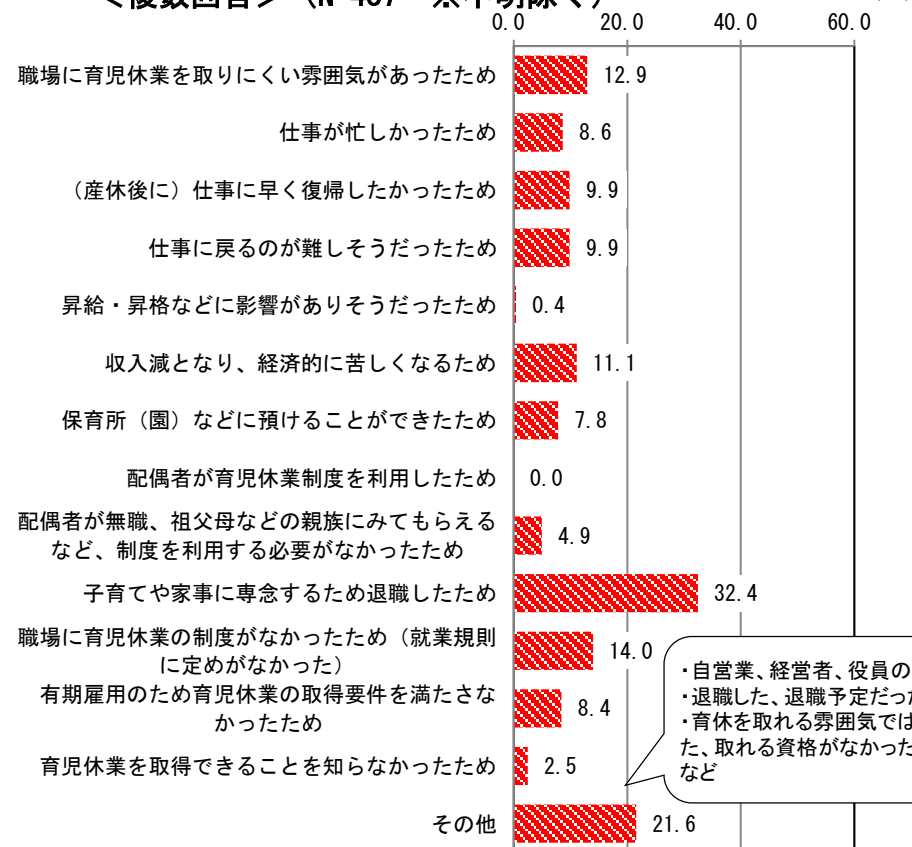
仕事量の多さ

勤め先の子育てへの理解不足

① 育休を取得しなかった理由（母親）

＜複数回答＞（N=487 ※不明除く）

(%)

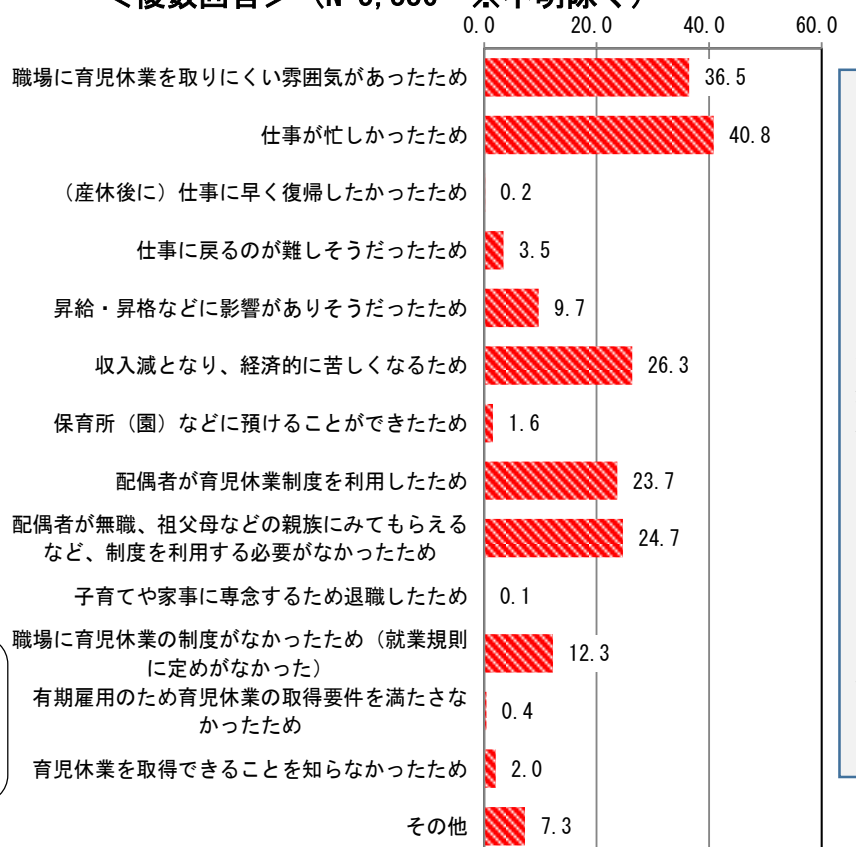


・自営業、経営者、役員のため
・退職した、退職予定だったため
・育休を取れる雰囲気ではなかった、取れる資格がなかったため
など

② 育休を取得しなかった理由（父親）

＜複数回答＞（N=5,336 ※不明除く）

(%)



《参考》保護者グループヒアリングより

Q. 自分や配偶者が働いている会社は子育てしやすいか。何が子育てしやすい／しにくいにつながっているか。

○育休等子育て支援制度の有無よりも「同じくらいの子どもがいる家庭が多く、大変さが分かってもらえる」、「子育て世代の人が職場や同僚にいないので理解してもらえない。制度があるが利用しにくい雰囲気がある。」、「子育て中の同僚が多く、理解がある。」など、職場・同僚に子育てへの理解があるかどうかの意見が多く出た。

○「上の世代の男性は子育てを共有する感覚をもっと持ってほしい。そうでなければ会社全体で子育てを支援する雰囲気は作ることにはできない。」などの意見も出た。

2. 子育てに対する保護者の意識

(1) 子育ての楽しさと大変さ（問13関係）

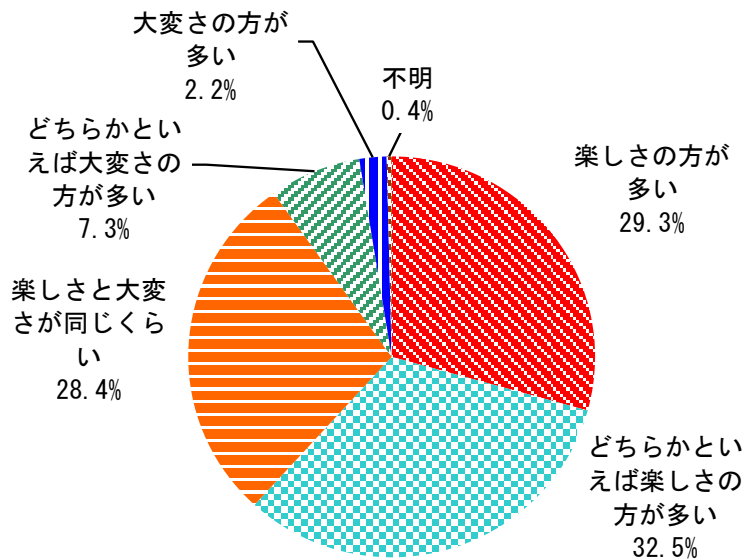
- ・「子育てに楽しさと大変さ、どちらを感じる人が多いか」とについては、「楽しさの方が多い」、「どちらかといえば楽しさの方が多い」と答えた人は計61.8%であった。一方、「どちらかといえば大変さの方が多い」、「大変さの方が多い」と答えた人は計9.5%であった。
- ・世帯構成ごとの内訳では、「ひとり親世帯(子+母/父親)」のみが「楽しさと大変さが同じくらい」が最も多く、その他の世帯では、「どちらかといえば楽しさの方が多い」が最も多かった。
- ・「子どもをみてもらえる親族・知人の有無」別では、「子どもをみてもらえる人はいない」世帯のみが「楽しさと大変さが同じくらい」が最も多かった。

《キーワード》

ひとり親の子育てへの不安感

孤立する方の子育てへの不安感

子育てに楽しさと大変さ、どちらを感じる人が多いか (N=6,116)



子育ての楽しさと大変さについて（世帯構成ごと・子どもをみてもらえる親族等の有無ごとの内訳）

	N	楽しさの方が多い	どちらかといえば楽しさの方が多い	楽しさと大変さが同じくらい	どちらかといえば大変さの方が多い	大変さの方が多い	不明
全体	6,116	29.3	32.5	28.4	7.3	2.2	0.4
世帯構成							
お子さん+ご両親(二世帯世帯)	5,469	29.2	32.5	28.8	7.1	2.0	0.4
お子さん+ご両親+祖父母(三世帯世帯)	335	33.1	34.9	22.1	7.2	2.4	0.3
お子さん+母/父親(ひとり親・二世帯世帯)	195	25.1	26.7	28.7	12.3	6.2	1.0
お子さん+母/父親+祖父母(ひとり親・三世帯世帯)	98	32.7	32.7	25.5	8.2	1.0	-
子どもをみてもらえる親族・知人							
日常的に子どもの祖父母などの親族にみてもらえる	1,444	38.0	32.8	22.6	5.1	1.0	0.6
緊急時もしくは用事の際には子どもの祖父母などの親族にみてもらえる	3,655	29.2	32.6	29.2	6.9	1.7	0.4
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	97	41.2	34.0	20.6	3.1	1.0	-
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	646	34.8	36.7	23.7	3.3	1.2	0.3
子どもをみてもらえる人はいない	1,189	22.2	30.7	32.4	10.0	4.4	0.3

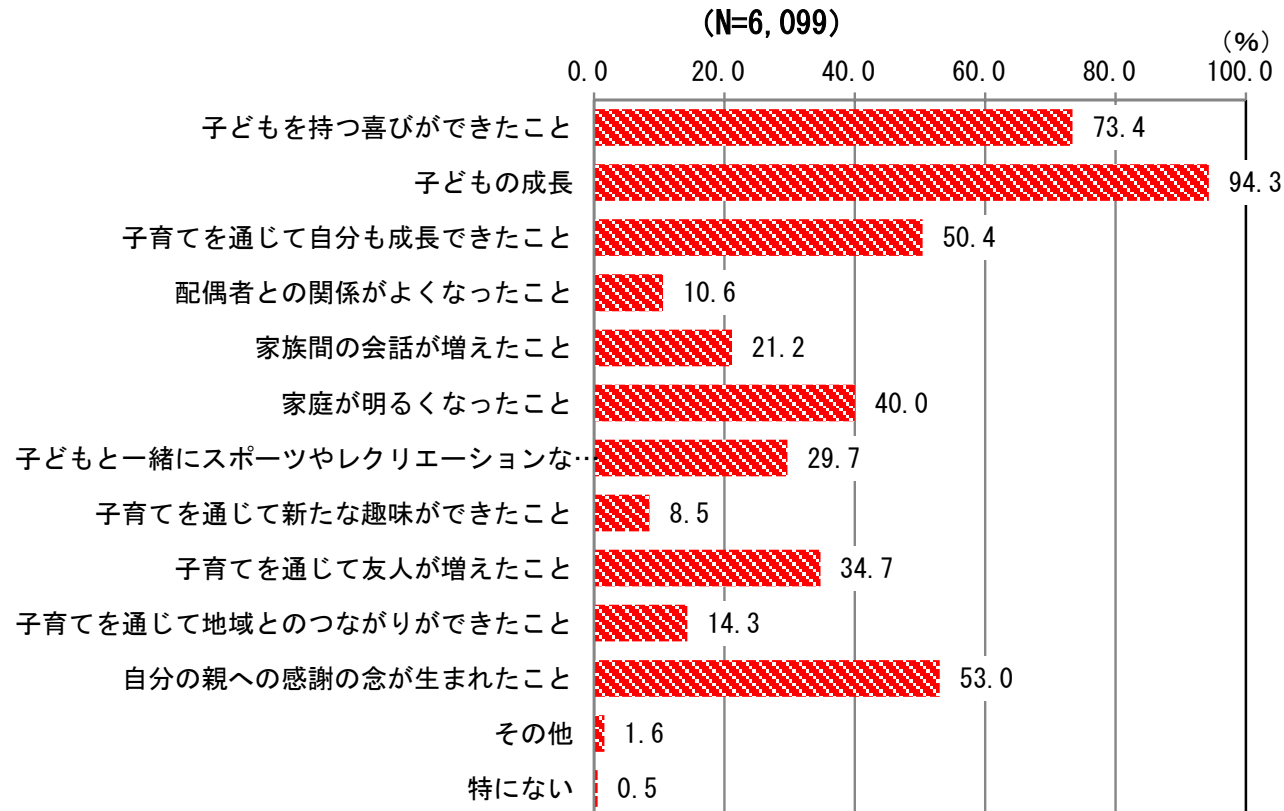
※色付きは各行について濃い順に1・2・3番めに高い値であることを示している。

2. 子育てに対する保護者の意識

(2) 子育てをしていてよかったこと、うれしかったこと（問14関係）

・「子育てをしていてよかったこと、うれしかったこと」とについては、「子どもの成長」が94.3%で最も多く、次いで、「子どもを持つ喜びができたこと」、「自分の親への感謝の念が生まれたこと」、「子育てを通じて自分も成長できたこと」が続いている。

子育てをしていてよかったこと、うれしかったこと＜複数回答＞



《参考》保護者グループヒアリングより

Q. 子育てをしてよかったこと、うれしかったことは何か。

○「子どもの成長を支えて、その姿を見守ることができること」、「子どもの成長を感じられたとき」、「必要としてくれていると感じるとき」、「同じ時間を子どもと共有して、感動を分かち合うことができること」といった意見が出た。

2. 子育てに対する保護者の意識

(3) 子育ての悩み（問15関係）

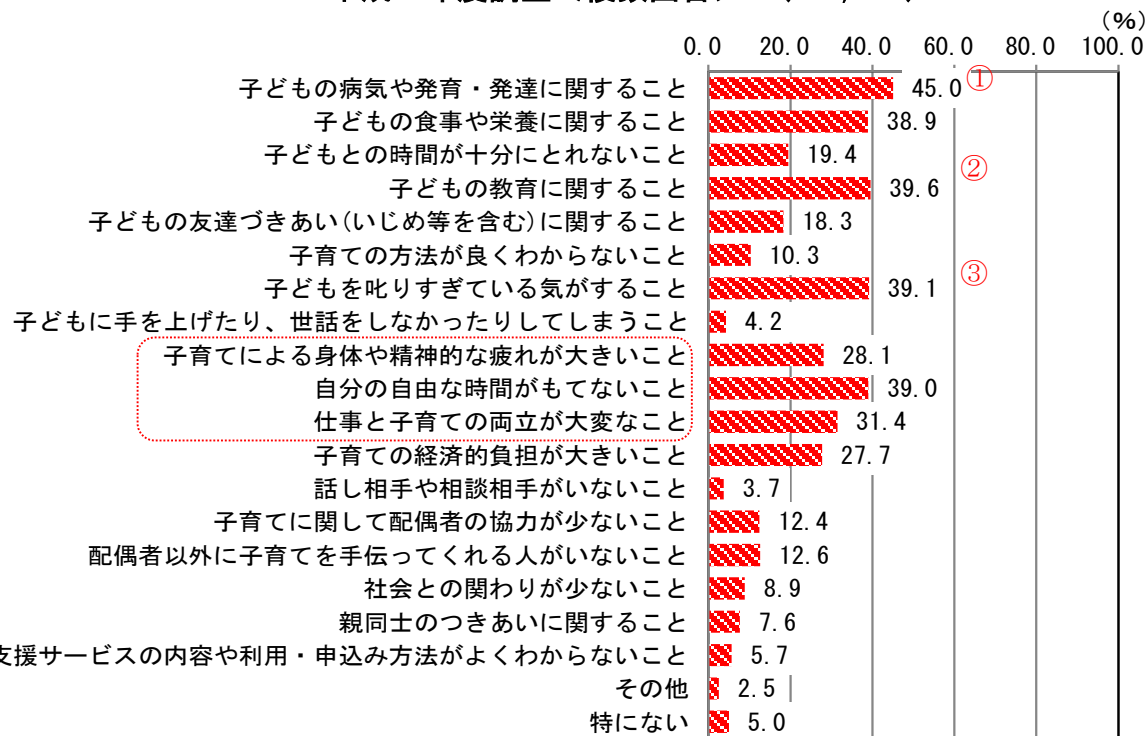
- ・「子育てをされていて感じる悩み」については、「子どもの病気や発育・発達に関すること」が45.0%で最も多く、次いで、「子どもを叱りすぎている気がする事」、「子どもの教育に関する事」が続いている。
- ・平成25年度調査の結果と比較すると、上位3項目は同じであったが、「自分の自由な時間がもてないこと」（平成25年：28.3%⇒平成30年：39.0%）、「仕事と子育ての両立が大変なこと」（平成25年：21.7%⇒平成30年：31.4%）、「子育てによる身体や精神的な疲れが大きいこと」（平成25年：19.4%⇒平成30年：28.1%）がそれぞれ約10ポイント増加している。

《キーワード》

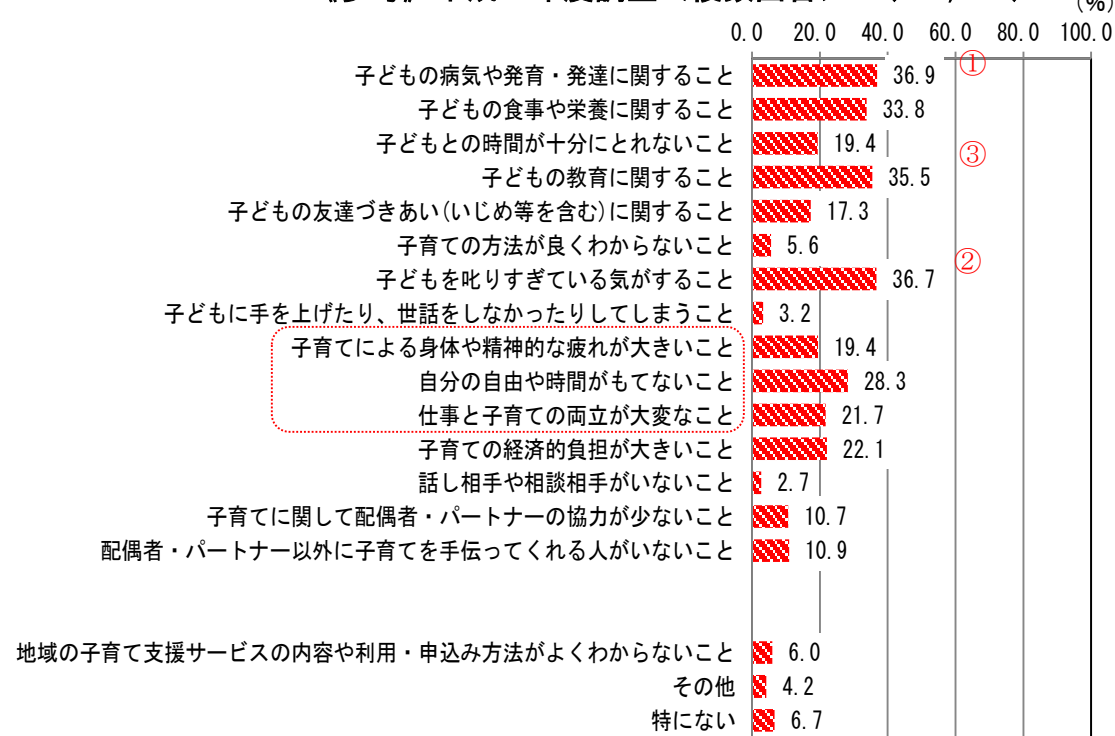
病気・発育・発達への悩みの多さ

子育てに対する親自身の悩みの増加

平成30年度調査＜複数回答＞（N=6,065）



《参考》平成25年度調査＜複数回答＞（N=6,155）



2. 子育てに対する保護者の意識

(4) 子育てに関する悩みの相談先（問11関係）

- ・「子育てについて気軽に相談できる相談先」については、「配偶者」が85.2%と最も多く、次いで、「子どもの祖父母などの親族」、「友人や知人」、「保育所などの保育士」、「幼稚園の教諭」が続いている。
- ・グループヒアリングからは、「病気時の対応」や「障がい児の対応」について、多様な意見が出された。

《キーワード》

病児保育、ベビーシッター等のニーズ

ワンストップの発達障がい窓口のニーズ

いつでも通える遊び場へのニーズ

親のストレス解消のニーズ

《参考》保護者グループヒアリングより

Q. 子育てをされていて大変なこと、困ったことは何か。その解消策は何か。

○「子どもが病気になった時」、「親自身・子どもが病院に行く時」が多く出た。解消策として、「病児保育」、「理由を問わず利用できる一時保育」、「ベビーシッター」などが挙げられた。特に「病児保育」については、「今も病児保育を受け入れる病院はあるが、定員が少なく、結局使えたことがない。」といった意見も出た。

○「家にいると体力が余ってぐずる」ため、解消策として、「いつでも行ける遊び場。子育てサロンは9時～12時までが多く、18時くらいまで実施してほしい。」という意見が出た。

○「子どもに発達障がいがあるかもしれないと感じた時に、どこに・誰に相談して良いかわからず、第一歩を踏み出すまで時間がかかった。」といった意見があり、解決策としては、相談場所を紹介するWebサイト、何でも相談できるワンストップ的な相談窓口」が挙げられた。

○障がいに関しては、参加者から「発達に不安のある子や保護者の心のケア、そのケアをしてくれる場所の具体的な案内をしてほしい。」、「発達障がいのある子どもが地域できちんと成長していけるよう、サポート体制を充実してほしい。」といった意見が出された。

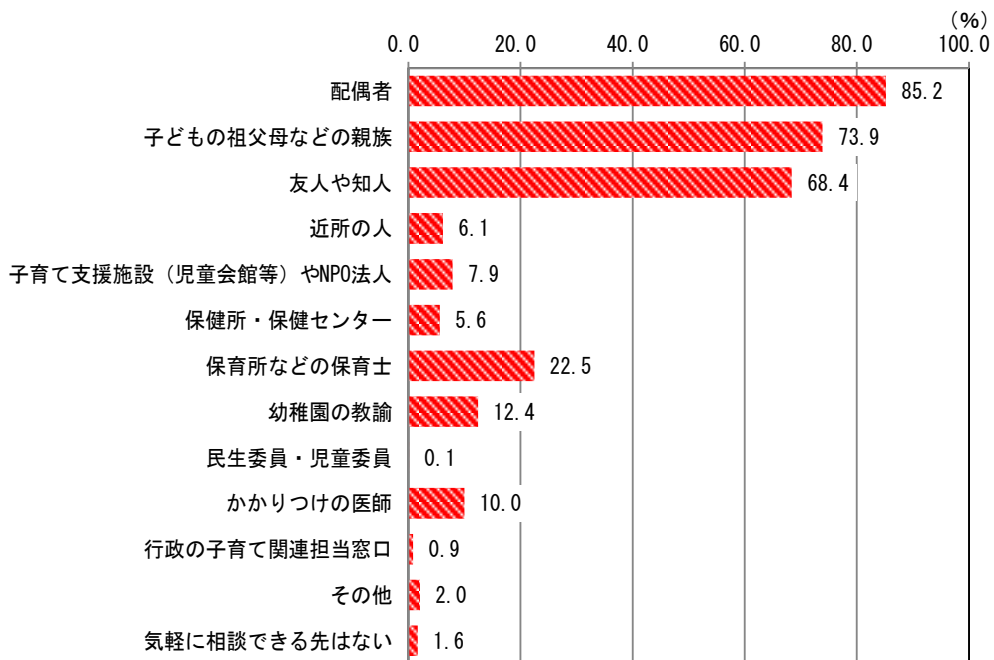
《参考》子育て支援者グループヒアリングより

Q. 子育て支援をされていて、特に問題・重要だと思う「悩み」の内容は何か。

○「家庭ごとの関わりの差。アウェイ育児と祖父母のいるホーム育児の格差。」、「家族に寄り添って気軽に相談に乗ってくれる人がいない。」といった事柄が挙げられた。

○解決策として、「少しでも親の相談に乗れるよう個別に対応する。」、「悩みを吐き出せる（共有できる）場所を作る。」といった相談・悩みを聞く場・人の必要性が言及された。

平成30年度調査＜複数回答＞（N=6,065）



2. 子育てに対する保護者の意識

(5) 子育てに関する情報の入手先（問12関係）

・「子育てや子育て支援に関する情報の入手先」については、「家族・友人・知人」が69.4%と最も多く、次いで、「テレビ・ラジオ」、「雑誌・情報誌」及び「広報さっぽろ」、「札幌市発行の情報誌（「さっぽろ子育てガイド」等）」が続いている。

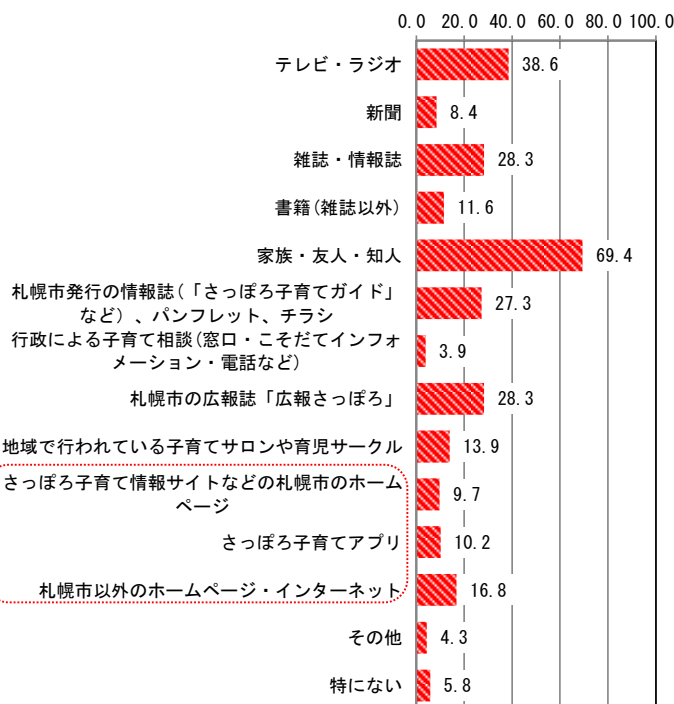
・平成25年度調査の結果と比較すると、「テレビ・ラジオ」、「新聞・雑誌」が減少する一方、「札幌市以外のホームページ・インターネット」（平成25年：7.8%⇒平成30年：16.8%）が大きく増加したほか、新たに、「さっぽろ子育てアプリ」が10.8%の回答があり、インターネット関係からの情報収集が増加している。

《キーワード》

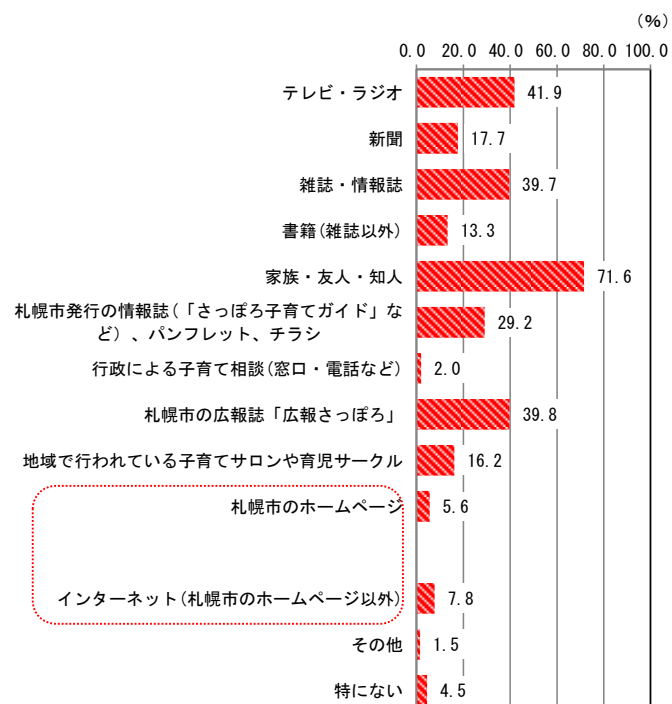
インターネット
情報収集の増加

プッシュ型の情報
発信のニーズ

平成30年度調査＜複数回答＞
(N=6,092)



《参考》平成25年度調査＜複数回答＞
(N=6,098)



《参考》保護者グループヒアリングより

Q. どのような情報が最もほしいか。

○「子ども向けのイベント情報」、「子どもと一緒に遊べるイベントや飲食店の情報」、「子どもが楽しめるスポット情報」、「冬の遊び場」など、子どもと行ける場所・催しについての意見が多く出た。

○「年齢に応じた発達状況」や「一時預かりの空き状況」といった声もあった。

Q. 子育ての情報はこういった機会、場所、どのような媒体だと入手しやすいか。

○「Web」「ネット」「アプリ」「メールマガジン」「SNS」など、インターネット関連の言葉が比較的多く挙げられた。

○情報を届けるためのプッシュ型の媒体が必要という意見があり、「アプリ」「メルマガ」「メール」といった意見が出された。

○一方、紙媒体として「チラシ」「冊子」を挙げる意見も出たが、紙媒体の置き場所として、「ワーキングママはとにかく多忙なので、『保育園』や『学校』でチラシ等を受け取れるようにしてほしい。」という意見が出た。

2. 子育てに対する保護者の意識

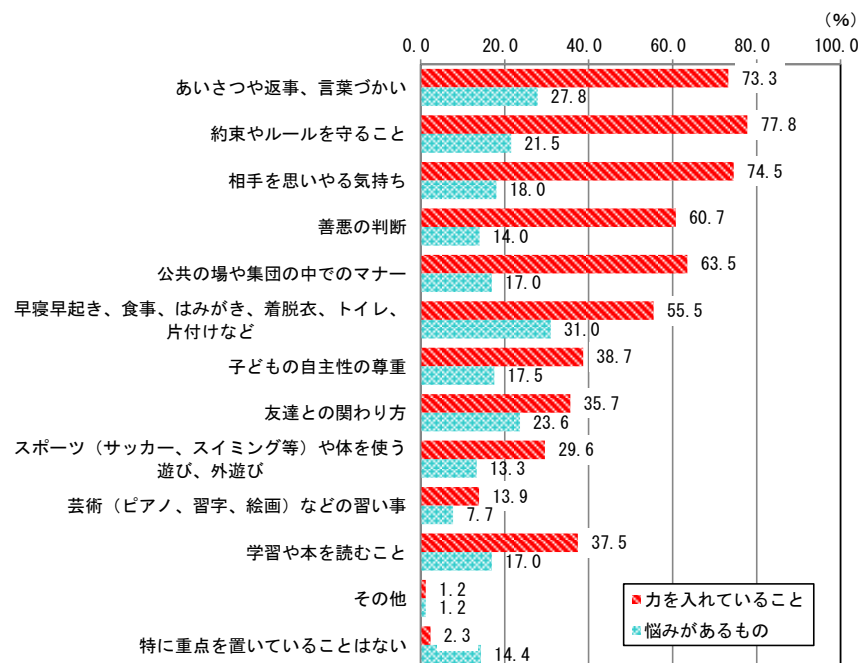
(6) 家庭での子育て（問32・問33関係）

- ・5歳以上の子どもを持つ保護者に、「子育てで特に力を入れていること」を聞いたところ、「約束やルールを守ること」が77.8%で最も多く、次いで、「相手を思いやる気持ち」、「あいさつや返事、言葉づかい」、「公共の場や集団の中でのマナー」が続いている。
- ・一方、「子育てに関し悩みがあるもの」を聞いたところ、「早寝早起き、食事、はみがき、着脱衣、トイレ、片付けなど」が31.0%で最も多く、次いで、「あいさつや返事、言葉づかい」、「友達との関わり方」が続いている。
- ・世帯構成ごとの内訳では、「三世帯世帯」で「あいさつや返事、言葉づかい」が最も多く、「二世帯世帯」で「早寝早起き、食事、はみがき、着脱衣、トイレ、片付けなど」が最も多い。なお、「ひとり親世帯」では、「学習や本を読むこと」も2割を超えている。

【お子さんが5歳以上の方限定】

子育てで特に力を入れていること<複数回答> (N=726 ※不明除く)

子育てに関して悩みがあるもの<複数回答> (N=571 ※不明除く)



子育てに関して悩みがあるもの（世帯構成ごとの内訳）

	N	あいさつや返事、言葉づかい	約束やルールを守ること	相手を思いやる気持ち	善悪の判断	公共の場や集団の中でのマナー	早寝早起き、食事、はみがき、着脱衣、トイレ	子どもの自主性の尊重	友達との関わり方	スポーツ（サッカー、スイミング等）や体を使う遊び、外遊び	芸術（ピアノ、習字、絵画）などの習い事	学習や本を読むこと	その他	特に重点を置いていることはない
全体	571	27.8	21.5	18.0	14.0	17.0	31.0	17.5	23.6	13.3	7.7	17.0	1.2	14.4
世帯構成														
お子さん+ご両親(二世帯世帯)	496	27.2	21.8	18.3	14.3	16.9	30.0	17.9	23.4	13.9	7.5	16.3	1.4	14.3
お子さん+ご両親+祖父母(三世帯世帯)	25	44.0	36.0	24.0	16.0	16.0	36.0	16.0	28.0	8.0	8.0	16.0	-	12.0
お子さん+母/父親(ひとり親・二世帯世帯)	40	22.5	12.5	15.0	10.0	20.0	40.0	12.5	27.5	12.5	7.5	25.0	-	20.0
お子さん+母/父親+祖父母(ひとり親・三世帯世帯)	9	44.4	11.1	-	11.1	11.1	33.3	22.2	11.1	-	11.1	22.2	-	-

※色付きは各行について濃い順に1・2・3番めに高い値であることを示している。

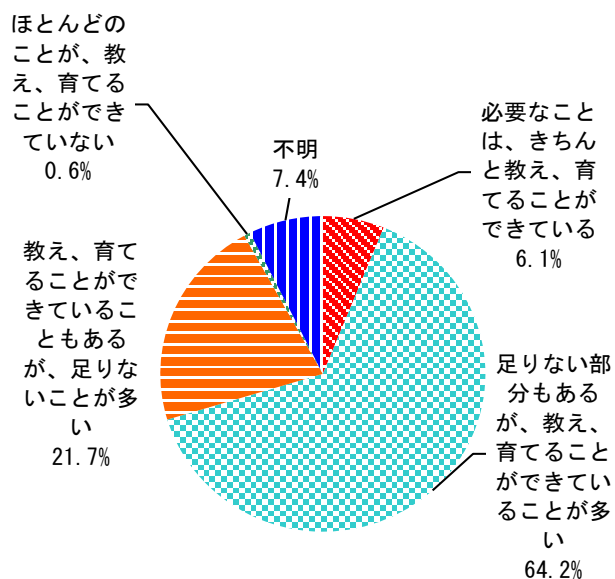
2. 子育てに対する保護者の意識

(6) 家庭での子育て（問32・問33関係）

- ・5歳以上の子どもを持つ保護者に、「家庭での子育てについてどのように思っているか」を聞いたところ、「足りない部分もあるが、教え、育てることができていることが多い」が64.2%で最も多く、次いで、「教え、育てることができていることもあるが、足りないことが多い」が続く。
- ・「子どもをみてもらえる親族・知人の有無」別では、「子どもをみてもらえる人はいない」世帯で、「教え、育てることができていることもあるが、足りないことが多い」との回答が3割弱(27.5%)を占めており、他の世帯よりも多い結果となっている。

家庭での子育てについて（世帯構成ごと・子どもをみてもらえる親族等の有無ごとの内訳）

【お子さんが5歳以上の方限定】
家庭での子育てについてのどのように思っているか（N=785）



	N	必要なことは、きちんと教え、育てられている	足りない部分もあるが、教え、育てることが多い	教え、育てることができていることもあるが、足りないことが多い	ほとんどのことが、教え、育てることができていない	不明
全体	785	6.1	64.2	21.7	0.6	7.4
問4 世帯構成						
お子さん+ご両親(二世帯世帯)	684	6.3	64.2	21.3	0.6	7.6
お子さん+ご両親+祖父母(三世帯世帯)	39	2.6	61.5	28.2	-	7.7
お子さん+母/父親(ひとり親・二世帯世帯)	48	6.2	60.4	25.0	2.1	6.2
お子さん+母/父親+祖父母(ひとり親・三世帯世帯)	13	7.7	84.6	7.7	-	-
問10 子どもをみてもらえる親族・知人						
日常的に子どもの祖父母などの親族にみてもらえる	177	6.8	67.2	17.5	-	8.5
緊急時もしくは用事の際には子どもの祖父母などの親族にみてもらえる	462	6.3	65.4	20.1	0.6	7.6
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	18	27.8	66.7	-	-	5.6
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	107	8.4	68.2	13.1	-	10.3
子どもをみてもらえる人はいない	160	4.4	61.9	27.5	1.2	5.0

※色付きは各行について濃い順に1・2・3番めに高い値であることを示している。

3. 子育てに対する保護者のニーズ

(1) 予定する子どもの人数（問8関係）

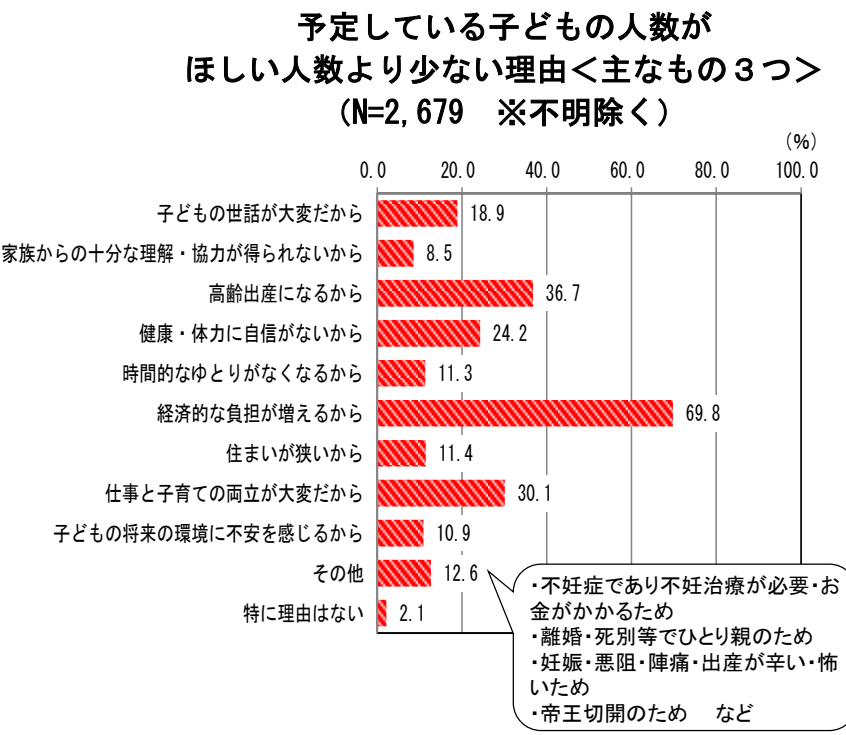
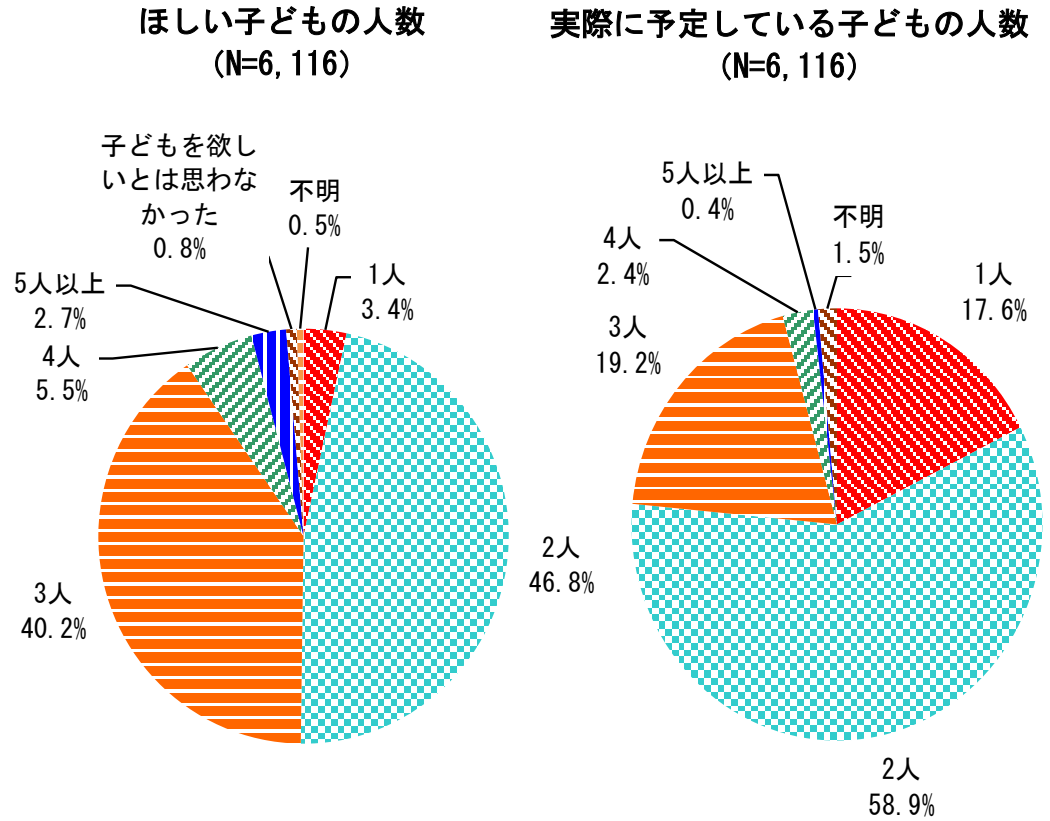
・「ほしいと思っている子どもの人数」については、「2人」が46.8%、「3人」が40.2%、「1人」が3.4%であるが、「実際に予定している子どもの人数」については、「2人」が58.9%、「3人」が19.2%、「1人」が17.6%となっており、「1人」が14.2ポイント、「2人」が12.1ポイント増加している。

・「実際に予定している子どもの人数がほしい人数より少ない理由」を聞いたところ、「経済的な負担が増えるから」が69.8%と最も多く、次いで、「高齢出産になるから」、「仕事と子育ての両立が大変だから」が続いている。

《キーワード》

経済的な負担で
出産に躊躇

高齢や健康面などで出
産に躊躇、不妊治療中



《参考》保護者グループヒアリングより

Q. 理想の子どもの人数を安心して生み育てるためには、何が必要か。

○必要なことは、「お金」「経済面」「助成金」「医療費・教育費」など、金銭面の要望が多く出た。

○一方、「地域の方々との交流」「周りからのサポート」「働きながら子育てしやすい社会」「地域の助け合い」「人付き合い」といった、地域・社会からのサポートを求める意見も挙げられた。

3. 子育てに対する保護者のニーズ

(2) 平日の定期的な預け先（問19・問21関係）

・「年間を通じて定期的に利用している教育・保育事業」については、「認可保育所・公立保育所」が40.1%と最も多く、次いで、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が29.6%、「認定こども園」が16.4%と続いている。

・平成25年度調査の結果と比較すると、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が大きく減少（平成25年：44.8%、平成30年：29.6%）する一方、「認定こども園」が大きく増加（平成25年：2.0%、平成30年：16.4%）している。

・一方、2019年10月からの幼児教育・保育の無償化を踏まえて「定期的に利用したい教育・保育事業」を聞いたところ、現在、定期的に教育・保育事業を「利用していない」と回答している者では、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」の回答が最も多く、潜在的な幼稚園の利用ニーズがあることが窺える。

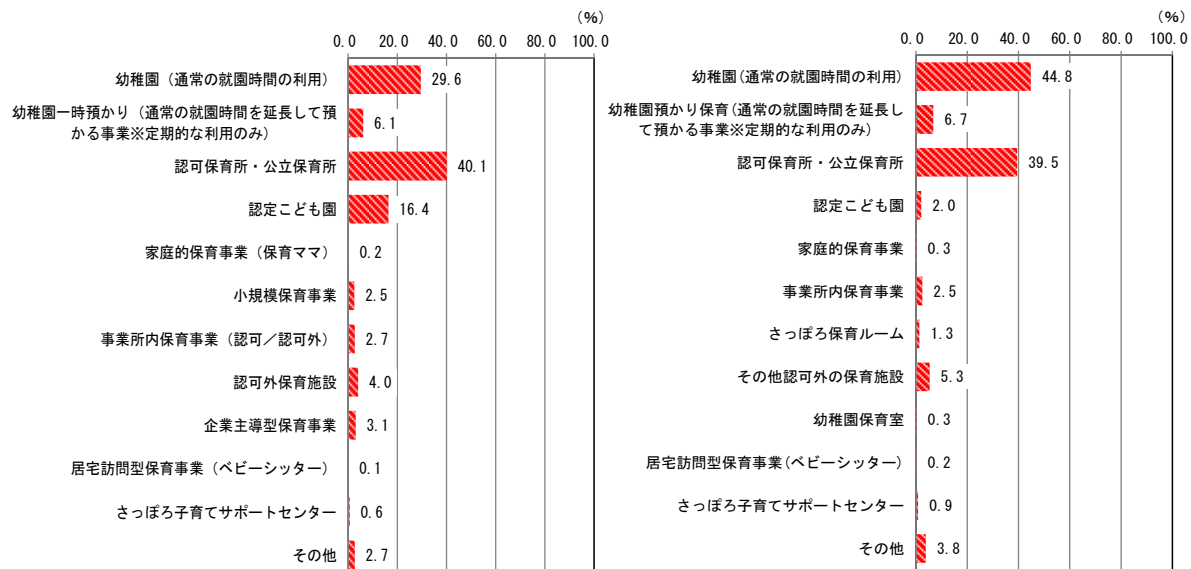
《キーワード》

- 認定こども園
ニーズの増加
- 幼稚園への
潜在的ニーズ

①定期的に利用している教育・保育事業＜複数回答＞

平成30年度調査（N=3,502）

《参考》平成25年度調査（N=3,340）



②定期的に利用したい教育・保育事業＜複数回答＞

平成30年度調査
定期的に利用している
(N=3,487)

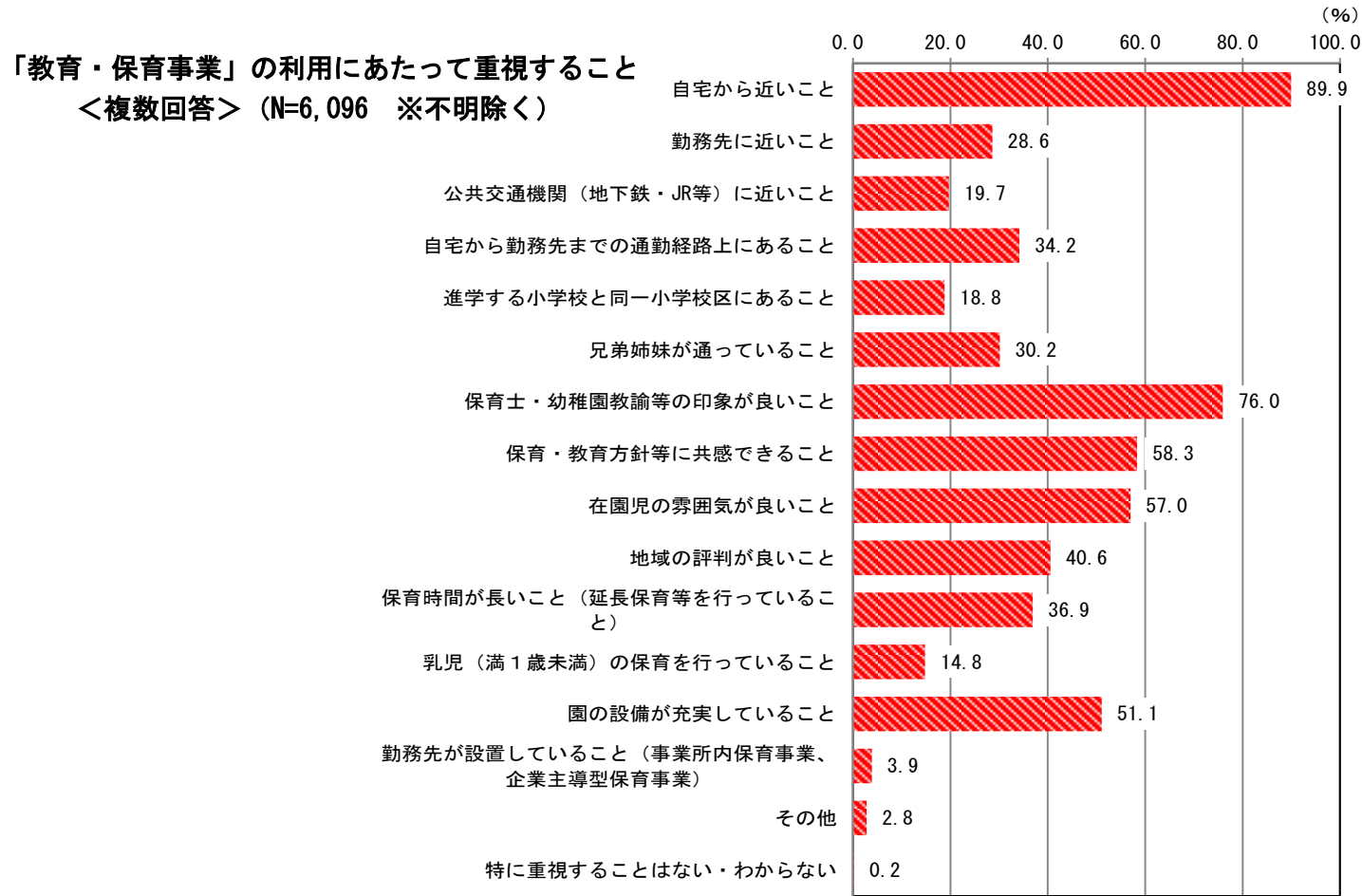
平成30年度調査定
定期的に利用していない
(N=2,568)



3. 子育てに対する保護者のニーズ

(3) 教育・保育事業の利用にあたって重視すること（問24関係）

・「教育・保育事業」の利用にあたって重視することについては、「自宅から近いこと」が89.9%と最も多かった。次いで、「保育士・幼稚園教諭等の印象が良いこと」、「保育・教育方針等に共感できること」、「在園児の雰囲気が良いこと」、「園の設備が充実していること」が続いており、これらは半数以上の方が重視すると回答している。



《参考》保護者グループヒアリングより

Q. 通園先を選んだ理由は何か。通園していない場合は、どのような基準・観点で選びたいか。

- 「立地」「自宅から近い」「仕事場から近い」「家から近い」など「アクセスの良さ」についての意見が多い。
- その他「教育・保育の方針」や「園の環境」などを挙げる意見も出た。
- 一方、「入れる園が現在通っている園しかなかった」「抽選の結果、消去法で」といった声もあった。

3. 子育てに対する保護者のニーズ

(4) 土曜、日曜・祝日の定期的な預け先（問22関係）

・土曜日の「教育・保育事業」の利用希望については、「特に利用希望ない」が56.2%と最も多く、次いで、「月に1～2回は利用したい」が27.6%となっている。平成25年度調査の結果と比較すると、「ほぼ毎週利用したい」、「月に1～2回は利用したい」の合計が大きく増加している。（平成25年：27.0%、平成30年：41.8%）

・日曜日・祝日の「教育・保育事業」の利用希望については、「特に利用希望ない」が78.2%と最も多く、次いで、「月に1～2回は利用したい」が16.4%となっている。平成25年度調査の結果と比較すると、「ほぼ毎週利用したい」、「月に1～2回は利用したい」の合計がやや増加している。（平成25年：13.5%、平成30年：19.7%）。

《キーワード》
土曜、日曜祝日
ニーズの存在

① 土曜日の利用希望

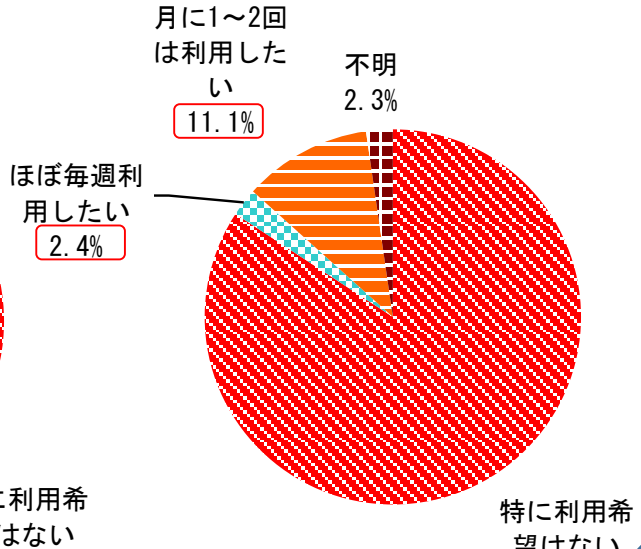
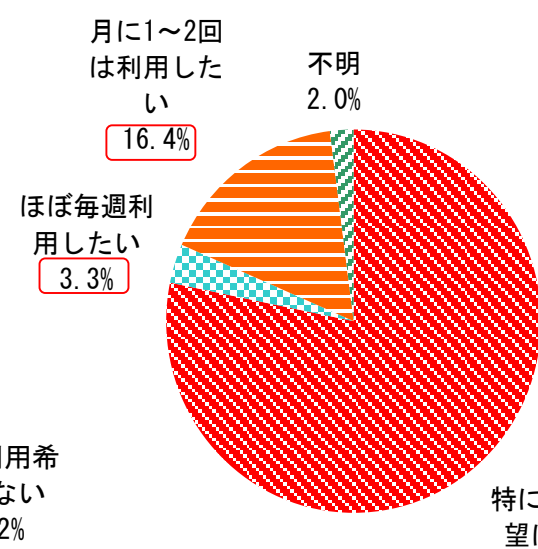
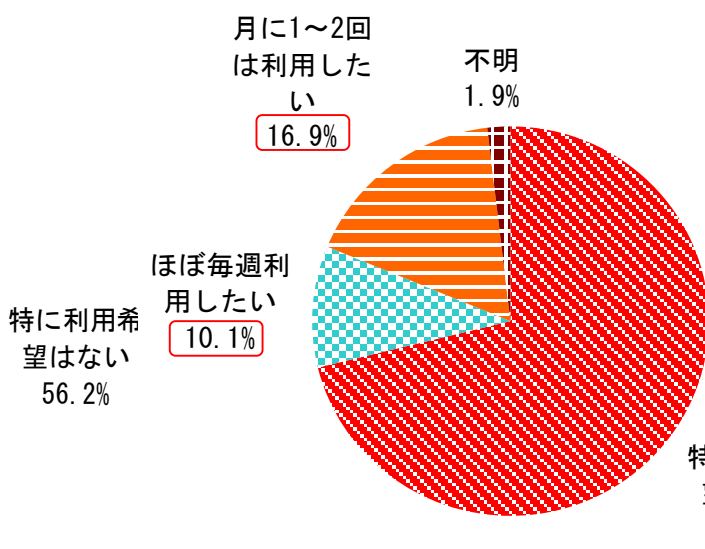
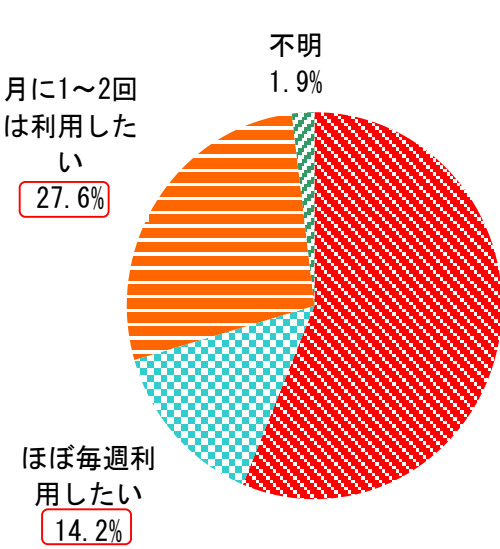
② 日曜日・祝日の利用希望

平成30年度調査（N=6,116）

《参考》平成25年度調査（N=6,208）

平成30年度調査（N=6,116）

《参考》平成25年度調査（N=6,208）



3. 子育てに対する保護者のニーズ

(5) 病気やケガが発生したときの対応（問25関係）

・「教育・保育事業」の利用者で、子どもが病気やケガで預けられなかったときの対応については、「母親が休んだ」が77.1%と最も多く、次いで、「親族・知人に見てもらった」、「父親が休んだ」の順となっている。平成25年度調査の結果と比較すると、「父親が休んだ」は増加（平成25年：19.0%、平成30年：27.1%）している。

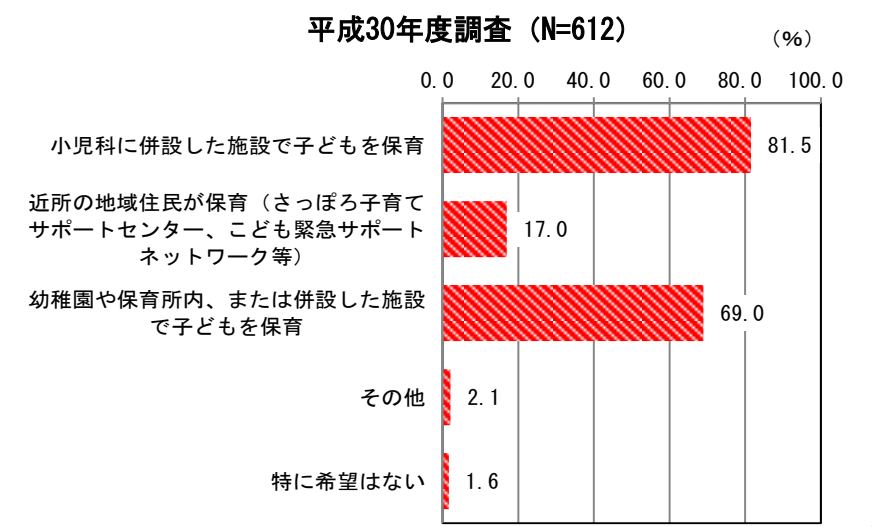
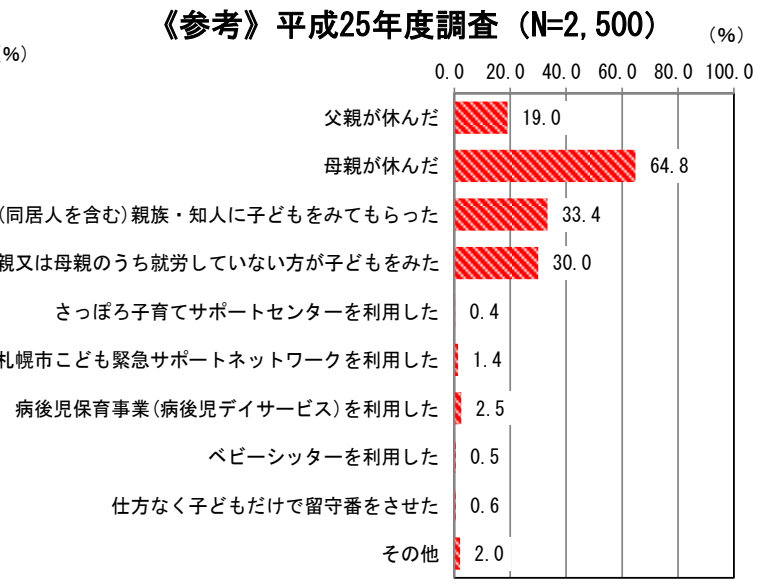
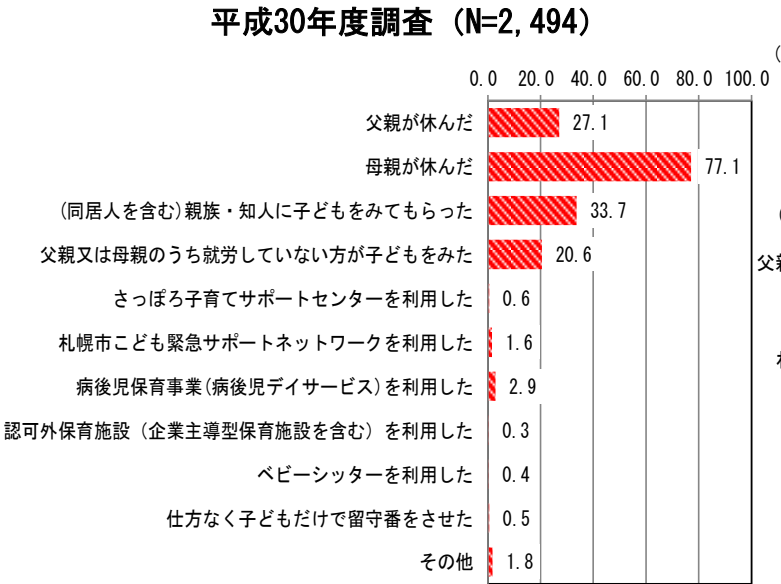
・「父母が休んだ」と回答したうち、「行政の病児・病後児のための預かりサービス」の利用を希望する世帯に、「子どもを預ける場合、望ましいと思う保育形態」を聞いたところ、「小児科に併設した施設で子どもを保育」との回答が81.5%と最も多かった。次いで、「幼稚園や保育所内、または併設した施設で子どもを保育」、「近所の地域住民が保育（さっぽろ子育てサポートセンター、こども緊急サポートネットワーク等）」の順となっている。

《キーワード》

- 病気時等は会社を休まざるを得ない実態
- 行政の預かりサービスへのニーズ

① 【子どもが病気やケガで利用できなかったことがあった方】
 ・ どのように対応したか＜複数回答＞

② 【行政の預かりサービスを利用したい方】
 ・ 望ましい保育形態は何か＜複数回答＞



3. 子育てに対する保護者のニーズ

(6) 不定期の教育・保育事業、宿泊を伴う一時預かり等の利用（問26関係）

・「日中、不定期に利用している事業」については、「利用していない」が89.7%と最も多かった。利用している事業としては、「幼稚園の一時預かり」、「保育所などでの一時預かり」が比較的多かった。

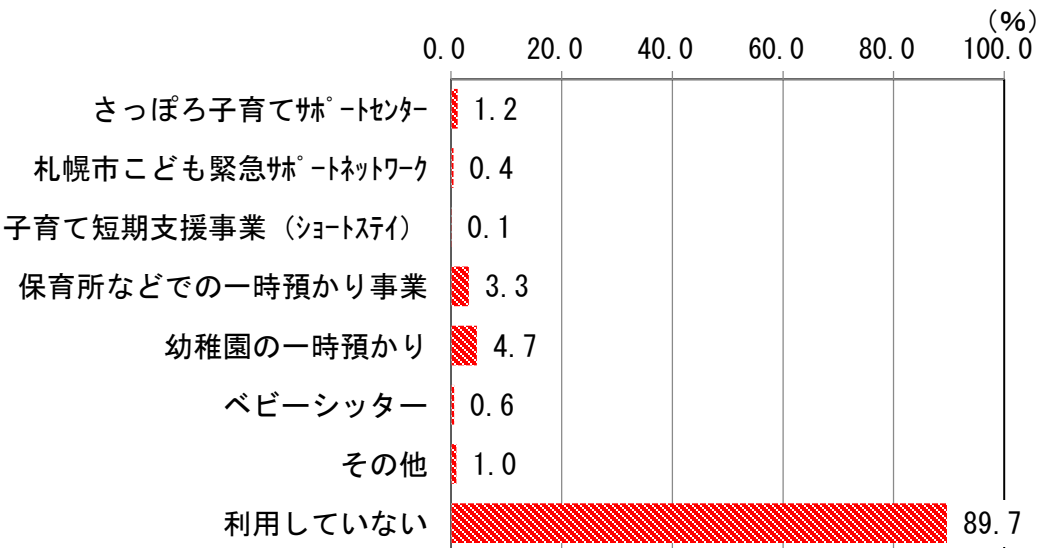
・「不定期の教育・保育事業を利用したいか・どのような場合に利用したいか」については、「利用する必要はない」が53.7%と最も多かった。「利用したい」との回答の内訳としては、「私用（買い物、子どもや親の習い事等）、リフレッシュ目的」との回答が32.5%、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院、出産、介護等」との回答が28.4%であった。

《キーワード》

リフレッシュ目的の一時預かりのニーズ

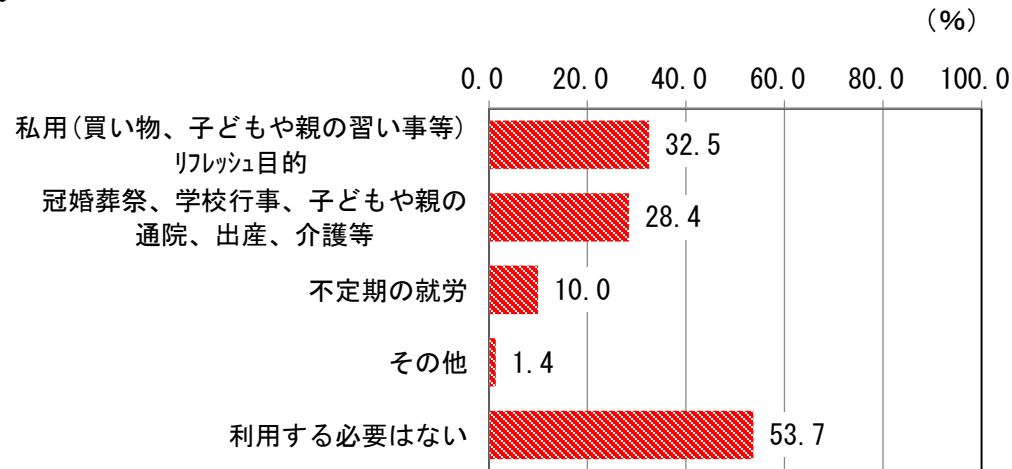
①日中、不定期に利用している事業＜複数回答＞

平成30年度調査（N=5,952）



②不定期の教育・宿泊事業を利用したいか・どのような場合に利用したいか。＜複数回答＞

平成30年度調査（N=612）



《参考》保護者グループヒアリングより

Q. 子育てをされていて大変なこと、困ったことは何か。その解消策は何か？

○「子どもと一日中一緒なので、ぐずった時にイライラしてしまう。」という意見が出た。解決策として「気分転換の散歩や外出。子どもを少しの時間預けられる場所。少しでも子どもと離れられる時間がほしい。また、子どもを預けることについて、批判されない雰囲気がほしい。」といった意見が出た。

3. 子育てに対する保護者のニーズ

(7) 小学校就学後の放課後の過ごし方（問30関係）

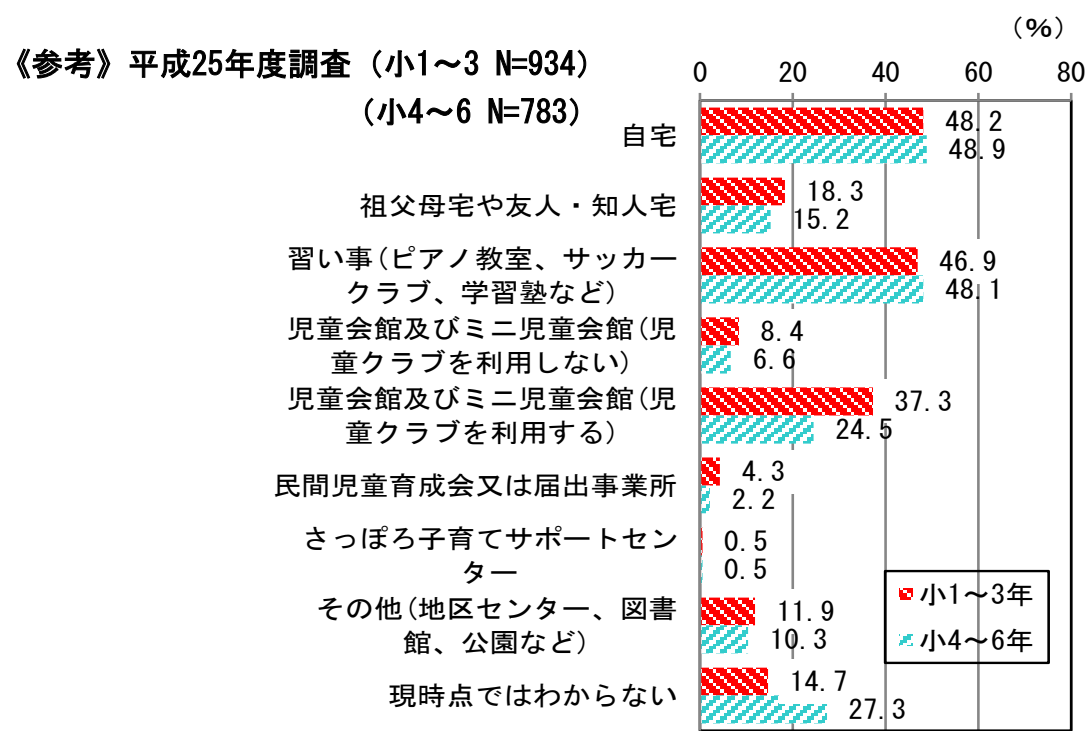
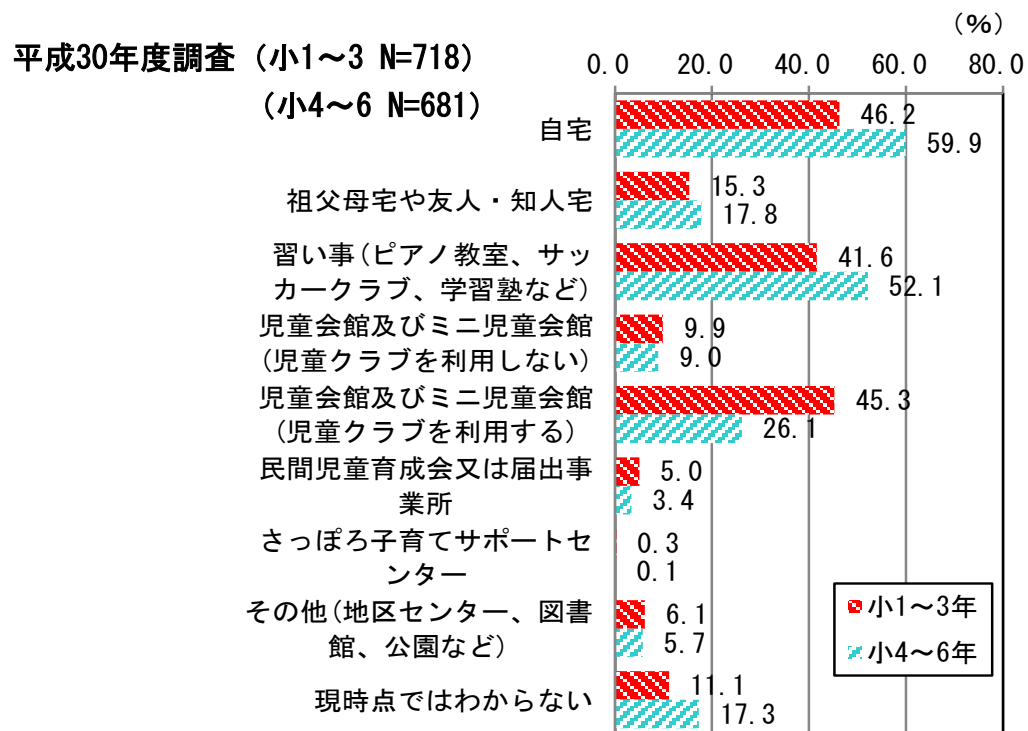
・小学校低学年の子どもを持つ保護者は、「放課後をどこで過ごさせたいか」について、「自宅」が46.2%と最も多く、次いで、「児童会館及びミニ児童会館（児童クラブを利用する）」、「習い事」が続いている。平成25年度調査結果と比較すると、「児童会館及びミニ児童会館（児童クラブを利用する）」との回答が増加している。（平成25年：37.3%、平成30年：45.3%）

・小学校高学年の子どもを持つ保護者は、「放課後をどこで過ごさせたいか」について、「自宅」が59.9%と最も多く、次いで、「習い事」、「児童会館及びミニ児童会館（児童クラブを利用する）」が続いている。平成25年度調査結果と比較すると、「自宅」との回答が増加している。（平成25年：48.9%、平成30年：59.9%）

《キーワード》

児童会館等の
高い利用ニーズ

【お子さんが5歳以上の方限定】放課後をどこで過ごさせたいか＜複数回答＞



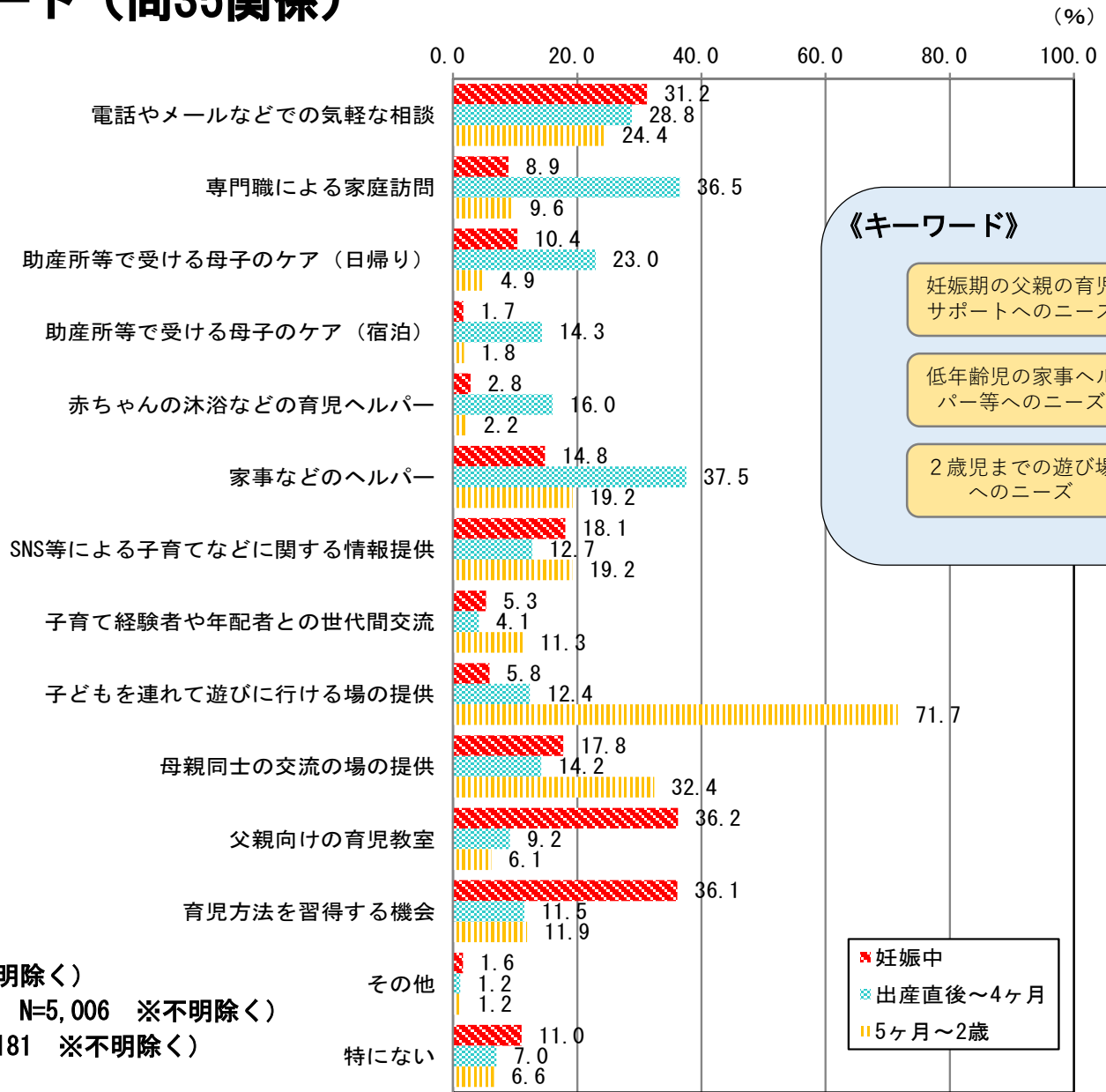
3. 子育てに対する保護者のニーズ

(8) 妊娠中から出産後までに特に重要なサポート（問35関係）

・妊娠中に、「特に重要だと思うサポート」については、「父親向けの育児教室」が36.2%と最も多くの回答があり、次いで、「育児方法を習得する機会」、「電話やメールなどでの気軽な相談」が続いている。

・出産後から4か月までに、「特に重要だと思うサポート」については、「家事などのヘルパー」が37.5%と最も多くの回答があり、次いで、「専門職による家庭訪問」、「電話やメールなどでの気軽な相談」が続いている。

・5か月から2歳までに、「特に重要だと思うサポート」については、「子どもを連れて遊びに行ける場の提供」が71.7%と最も多くの回答があり、次いで、「母親同士の交流の場の提供」、「父親向けの育児教室」が続いている。



《キーワード》

- 妊娠期の父親の育児サポートへのニーズ
- 低年齢児の家事ヘルパー等へのニーズ
- 2歳児までの遊び場へのニーズ

<複数回答> (妊娠中 N=5,150 ※不明除く)
 (出産直後から4ヶ月まで N=5,006 ※不明除く)
 (5ヶ月から2歳児 N=5,181 ※不明除く)

3. 子育てに対する保護者のニーズ

(9) 子育て支援策に関する意見・要望（問37関係）

・「既にある程度充実していると考える子育て支援施策」については、「医療機関にかかる費用負担を軽減する制度」が46.5%と最も多くの回答があった。一方、「住宅面の配慮」、「企業に対する職場環境の働きかけ」、「いじめや虐待から子どもを守る取組」などの満足度は低かった。

・「今後、充実させてほしい子育て支援施策」については、「子連れでも出かけやすく楽しめる場の整備」が61.4%と最も多くの回答があり、次いで、「認可保育所や幼稚園にかかる費用の軽減」、「子どもが医療機関にかかる費用負担を軽減する制度」、「企業に対する職場環境の改善の働きかけ」が続いており、「企業への働きかけ」は、満足度が低く、かつ、充実が求められる項目として挙げられている。

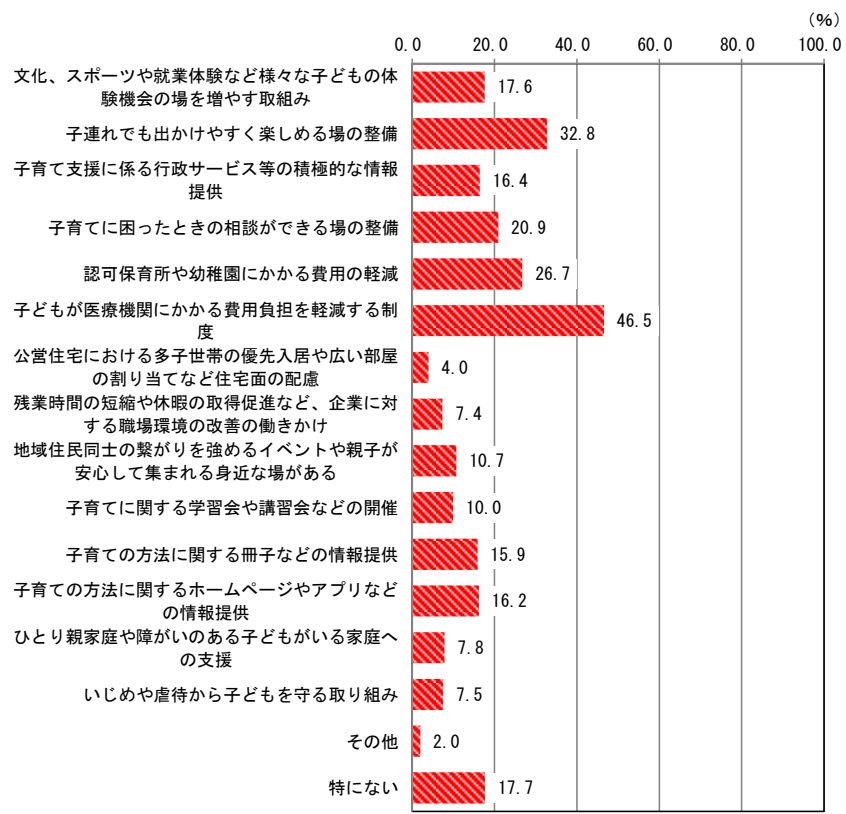
《キーワード》

子連れで楽しめる遊び場へのニーズ

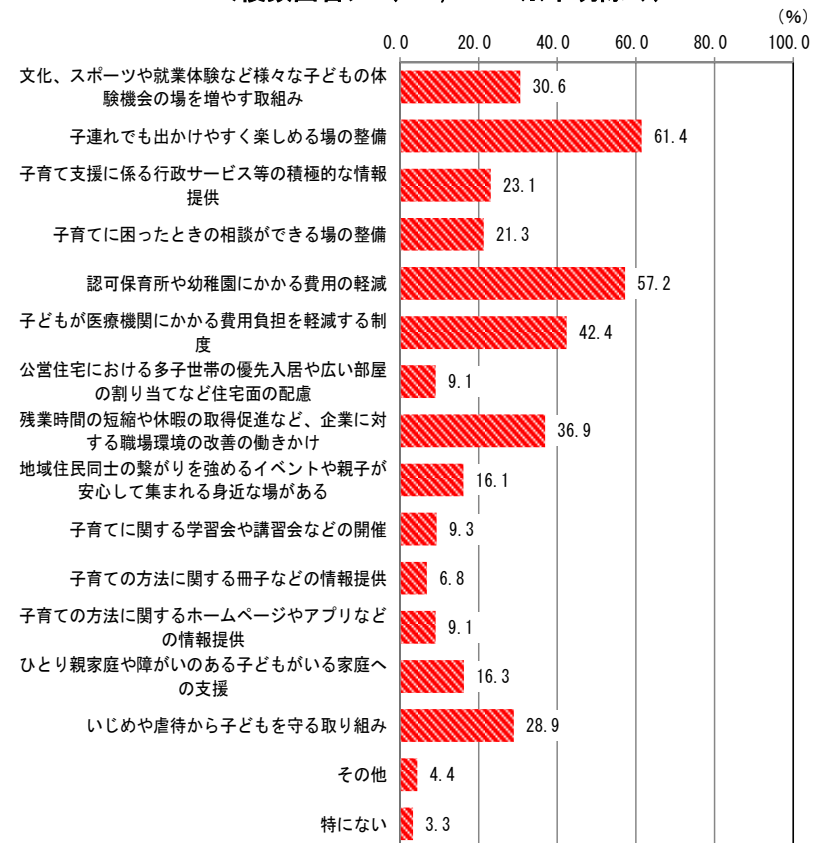
保育所、医療費等の経済的支援のニーズ

企業の職場環境改善の働きかけのニーズ

①すでにある程度充実していると考える支援施策
＜複数回答＞（N=5,777 ※不明除く）



②今後充実させてほしい支援施策
＜複数回答＞（N=5,973 ※不明除く）



《参考》保護者グループヒアリングより

Q. 子育てについて、一番札幌市に取り組みでほしいことは何か。

○「医療費負担の軽減」「予防接種の無償化」「保育料・学費の無償化」など、金銭・経済面を上げる意見が多い。

○そのほか、「屋内の遊び場の整備」「保育園を増やす」「待機児童を減らす」「子育てを応援する空気の醸成」など多様な意見が出た。

《参考》子育て支援者グループヒアリングより

○「病児保育の充実」「子どもと関わる時間の確保」「寄り添う子育てサロンの継続」「子どもを遊ばせる屋内施設」「経済的支援」「児童デイサービスに適切につないでくれる仕組み」などの意見が出た。

3. 子育てに対する保護者のニーズ

(10) その他自由記載（問38関係）

「子育て支援の取組への意見等自由記載」については、「経済的支援」、「待機児童の解消」、「保育所・幼稚園に係る費用」、「職場の意識改善」、「遊び場の整備」等の意見が多く寄せられた。

■医療費・教育費・経済的支援等

・他市では高校生まで医療費が無料だった。子育てしやすい街というなら、せめて中学生までは無料に。
 ・乳児期は自分の体調を言葉で伝えられないので受診を迷う。無償になれば、気軽に受診でき、心配事を相談できるので、安心して子育てできる。
 ・余裕があれば、もっと子どもを出産したかった。周囲の友人も同じ考えだ。 など

■職場・社会の子育て・意識改善等

・父親と母親の大人2人で、子どもが3歳まで子育てできる環境になればよい。母親1人で子どもを育てるワンオペ育児は大変。
 ・希望者のみ時短勤務という制度は、職場からの無言の圧力があり、肩身の狭い思いをしながらの勤務になる。
 ・産後、復職するつもりで育休を取得したが、思った以上に育児は大変で、職場はフルタイム以外の選択が難しく、退職した。 など

《参考》自由意見欄に記載があった意見・要望の分類

意見・要望の種類・分野	該当数
医療費・教育費・交通費等補助、経済的な支援	453
保育所・幼稚園の整備・職員増、待機児童の解消	294
保育所・幼稚園にかかる費用	185
職場・社会の子育て・子育て世帯への配慮・意識改善（産育休・短時間勤務等）	157
屋内型の遊び場の整備等	154
子育て支援等に関する情報	135
相談（窓口、保健師・行政等の対応）	131
一時預かり（病児・病後児保育以外）	109
子育てサロン	89
親・親子対象のイベント・イベント情報	81
保育士・幼稚園教諭の待遇改善・スキルアップ	60
病児・病後児保育	54
バリアフリー化（公共空間・交通機関等）	52
延長保育・土日祝日の保育等	49
公園等屋外の遊び場の整備、遊び場全般	47
子連れで行ける店舗・場所の普及	37
交流・交流の場（同世代・異世代・地域内等）	36
医療的ケア児、障がい・発達障がい	30
学童保育（児童クラブ、民間児童育成会）	30
ゴミ袋の支援	29

■屋内型の遊び場の整備等

・市外にはいくつかあるが、市内には無料で遊べる場所が少なく、困っている。室内の子育てサロンでは、小さい子どもも多く走り回る子どもを連れていくのに抵抗がある。
 ・冬が長いので、室内で思いっきり体を動かして遊べるところがほしい。下の子が生まれたばかりで、連れ出すのが難しい。室内なら天候を気にせず遊ばせることができる。 など

■一時預かり等

・母親の急な通院などで預けたいときに困る。気軽に、当日でも受付できる一時保育・託児を増やしてほしい。
 ・幼稚園の一時預かりを利用しているが、先生が人数を増やしたくないのか、いやな顔をされるときがある。預かりを申し込むのが2,3日前になってしまい申し訳ない。
 ・常に子どもとして自分に時間が持たず、精神的・体力的にも辛い。2,3時間だけでも気軽にリフレッシュできる時間があるとおおらかな気持ちを保ち、子どもにも優しくなれると思う。 など

■子育て支援等に関する情報

・東京居住時は子育てサロンやお悩み相談会などの情報が手紙で届いたので困らなかった。札幌では自分で情報を探さなければならず、子育てしづらい。
 ・様々な取組をされているが、インターネット、区役所、保健センター、広報誌等、情報提供元が複数あり、一元化してほしい。
 ・母子手帳交付時はいくつか情報をもらうが、その後は自分が何もしなければ情報は入らない。生まれてからは余裕がなく、しっかり伝えてほしい。「調べればわかる」はマイナス。教えてくれるとありがたい。 など

《キーワード》

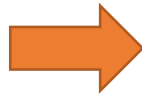
- 保育所、医療費等の経済的支援のニーズ
- 企業の職場環境改善の働きかけのニーズ
- 子連れで楽しめる遊び場へのニーズ
- プッシュ型の情報発信のニーズ
- リフレッシュ目的の一時預かりのニーズ

4. ニーズ調査のまとめと方向性

(1) 母親の就労割合の増加とそれに伴う父親の役割

《キーワード》

父親の子育てへの意識の高まり	働く母親の顕著な増加	父親の子どもと過ごす時間の少なさ
母親中心の子育て	育休取得は圧倒的に母親	妊娠期の父親の育児サポートへのニーズ



《方向性》

父親の育児参加を更に充実させるための取組の必要性

(2) 仕事と家庭の両立支援に向けた企業の役割

《キーワード》

父親の育児休業取得のハードル	職場の子育てへの理解不足	仕事量の多さ
----------------	--------------	--------



《方向性》

働き方の見直しなど、仕事と家庭の両立支援に向けた企業への働きかけの強化

(3) 子育てにおける孤立感やストレスへの対応

《キーワード》

頼れる人がいない	孤立する方の子育てへの不安感	子育てに対する親自身の悩みの増加
低年齢児の家事ヘルパー等へのニーズ	親のストレス解消のニーズ	リフレッシュ目的の一時預かりのニーズ



《方向性》

子育てに孤立感を抱える者や、ストレスを抱える者への対応について支援の必要性

(4) 子どもが病気時の対応

《キーワード》

病気・発育・発達への悩みの多さ	病気時等は会社を休まざるを得ない実態
病児保育、ベビーシッター等のニーズ	行政の預かりサービスへのニーズ



《方向性》

病児保育等のサービスの更なる拡充の必要性

4. ニーズ調査のまとめと方向性

(5) 子どもの遊び場の充実

《キーワード》

子連れで楽しめる遊び場へのニーズ

2歳児までの遊び場へのニーズ

親のストレス解消のニーズ



《方向性》

子どもの健やかな育ちを支え、保護者のストレスの軽減にもなりうる子どもの遊び場についての検討が必要

(6) 適切な情報取得への支援

《キーワード》

インターネット情報収集の増加

インターネット情報に頼る実態

プッシュ型の情報発信のニーズ

ワストップの発達障がい窓口のニーズ



《方向性》

悩みを抱える対象者に届く確実な情報提供手法についての検討が必要

(7) 経済的支援を求める声への対応

《キーワード》

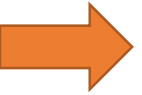
経済的な負担で出産に躊躇

保育所、医療費等の経済的支援のニーズ

高齢や健康面などで出産に躊躇、不妊治療中

ひとり親世帯の低い年収

ひとり親の子育てへの不安感



《方向性》

市民ニーズの高い経済的支援について、国制度や市独自制度を通して着実に実施

(8) 高まる保育ニーズへの対応

《キーワード》

認定こども園ニーズの増加

土曜、日曜祝日ニーズの存在

幼稚園への潜在的ニーズ

児童会館等の高い利用ニーズ



《方向性》

保育ニーズの高まりを見据えた着実な取組の実施